



応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)

No. 57

2012 (平成24) 年8月17日 (金) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室
TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: <http://www.ecesj.com/>
〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田光一, 事務局長 高橋眞彦)

1	はじめに	1
2	三学合同大会『ELR2012 東京』のご案内	2
3	行事案内	27
4	理事会・幹事会報告	31
5	事務局より	36
別紙-1	第3次中期計画中間報告	37
別紙-2	FAX・E-mail 用参加・発表申込書	40

1 はじめに

今回のニュースレターでは、三学合同大会『ELR2012 東京』のプログラムを中心にお届けします。日本緑化工学会が幹事学会となり、日本景観生態学会、応用生態工学会が合同で開催する『ELR2012 東京』は、7月20日締め切りの要旨提出を受け、各学会共同で要旨集の編纂を行って来ましたが、8月10日に最終プログラムが決まりました。研究発表では、口頭発表が67編、ポスター発表が177編の合計244編の発表が行われます。

大会プログラムについては、別途、学会ホームページに掲載致しますので印刷等にご利用ください。

その他の記事として、11月9日(金)、10日(土)の2日にわたって開催される北陸シンポジウムの案内、第53回幹事会報告、第62回理事会報告等をお届けしていますので、どうぞご覧下さい。

2 三学合同大会『ELR2012 東京』（応用生態工学会 第16回大会）のご案内

ELR 2012 東京のご案内

開催期間：2012年9月8日(土)～11日(火)

会 場：東京農業大学 世田谷キャンパス（東京都世田谷区桜丘 1-1-1）

主 催：日本緑化工学会 日本景観生態学会 応用生態工学会

協 賛：東京農業大学後援：国土交通省 環境省

《 大会日程 》

9月8日(土)

- | | | |
|--------------------------|-------------|-----------------------|
| ・研究集会「里山とランドスケープの放射能と除染」 | 10:00～12:00 | 242 教室 |
| ・合同大会趣旨説明（各口頭発表会場にて） | 12:50～13:00 | 131, 132, 141, 142 教室 |
| ・口頭発表 | 13:00～15:30 | 131, 132, 141, 142 教室 |
| ・ポスターコアタイム（その1） | 15:30～17:00 | 231, 232 教室 |
| ・研究集会「植物を用いた被災者支援」 | 17:00～19:00 | 242 教室 |
| ・研究集会「魅力的なテキストをつくろう！」 | 18:00～19:30 | 243 教室 |
| ・資材・工法展示 | 13:00～17:00 | 1号館1階中央ホール |

9月9日(日)

- | | | |
|--|-------------|-----------------------|
| ・口頭発表 | 09:00～11:00 | 131, 132, 141, 142 教室 |
| ・ポスターコアタイム（その2） | 11:00～12:30 | 231, 232 教室 |
| ・総 会 | 13:00～13:50 | 131, 132, 141 教室 |
| （総会会場は、緑化工：131 教室、景観生態：132 教室、応用生態：141 教室） | | |
| ・公開シンポジウム「災害と自然再生」 | 14:00～17:45 | 農大 100 周年記念講堂 |
| ・懇親会 | 18:00～19:45 | レストランすずしろ |
| ・資材・工法展示 | 09:00～13:00 | 1号館1階中央ホール |

9月10日(月)

- | | | |
|-------------------------------------|-------------|------------|
| ・研究集会「震災による生態系変化」 | 09:00～12:00 | 132 教室 |
| ・研究集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」 | 09:00～11:00 | 141 教室 |
| ・研究集会「生物多様性保全に寄与する地域性種苗の確保に関する取り組み」 | 09:00～10:30 | 142 教室 |
| ・研究集会「法面の自然回復緑化の最前線モニタリングと評価」 | 10:30～12:00 | 142 教室 |
| ・エクスカージョン「災害と自然再生」 | 13:00～ | （日帰り、宿泊共通） |

9月11日(火)

- | | | |
|--------------------|--------|------------|
| ・エクスカージョン「災害と自然再生」 | 09:00～ | （日帰り、宿泊共通） |
|--------------------|--------|------------|

《参加 / 発表される皆様へ》

《受付》

- ・9月8日(土)は、9:30から参加の受付を開始します。8日(土)の受付は非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- ・受付は1号館1階中央ホールで行います(当日は大学正門および経堂門から順路を表示します)。名札をお渡ししますので、会場では必ず名札を付けてください。
- ・大会参加費は3学会の会員5,000円(当日参加6,000円)、学生2,000円、非会員10,000円、懇親会参加費は5,000円(学生3,000円)です。費用には講演要旨集の料金が含まれます。大会運営をスムーズに行うため、事前申込および振込にご協力ください(発表申込は締め切りでしたが、参加は受付中です)。
- ・公開シンポジウムのみに参加される方は無料です。
- ・日本緑化工学会の講演要旨集(ELR 2012 東京の講演要旨集とは異なります)を受付にて販売しております。また、ELR 2012 東京の講演要旨集だけの販売も行っています。

《発表される方、全員に》

- ・ELR 2012 東京では、3学会の学术交流がスムーズに行えるよう、発表課題を、口頭発表、ポスター発表ともに、以下の15のセッションに分けました。
①都市の自然と環境、②外来生物への対応、③希少な生物の保全、④生物多様性の保全、⑤自然再生の理論と技術、⑥生息場と物理環境、⑦生物被害の防除、⑧モデリング / 計画 / 調査手法、⑨生物の基本性質や生理、⑩水質保全の理論と技術、⑪緑地再生の理論と技術、⑫リサイクル技術の応用、⑬災害と生態系、⑭環境教育と情報、⑮生態系サービス
- ・それぞれのセッションがつながりを持つようスケジュールを組みましたので、ご自身の発表されるセッションがどの時間帯に相当するのか、会場対応表にてご確認ください。

《口頭発表される方へ》

- ・口頭発表は全て備え付けのパソコンと液晶プロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OSはWindows 7、プレゼンテーションソフトはPower Point 2010 (Office 2010)です。Mac、古いバージョンのPower Point、あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は、事前にPower Point 2010で動作するか確認を行ってください(念のため動作確認用のPCを用意する予定です(場所未定))。また備え付けのパソコンは、通常のWindows 7日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。

- ・パワーポイントのファイルは、発表番号をファイル名とし、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USBメモリ、CD-Rで持参してください(MO、DVD、CD-RWは不可)。提出期限は以下のとおりです。

9月8日(土)発表の方：9月8日(土) 12:00 まで
9月9日(日)発表の方：9月9日(日) 08:30 まで

- ・発表時間は発表12分、質疑応答3分の合計15分です。1鈴：10分、2鈴：12分、3鈴：14分30秒です。時間厳守にご協力ください。
- ・パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが、自分で行いたい方は会場係にお伝えください。

《ポスター発表される方へ》

- ・ポスター発表の会場は231、232教室です。パネルにポスター番号を貼り付けていますので、ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください。
- ・ポスターは横90cm、縦180cm以内のサイズで作製して下さい。ただし縦のサイズは床からのパネル高さのため、見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします(A0判 841mm×1189mmを推奨します)。
- ・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けて下さい。
- ・ポスターの掲示は9月8日(土)～9日(日)の全期間とし、8日(土)の9:00～14:00の間に掲示して下さい。8日(土)の9:00～14:00の間の掲示が困難な方は、コアタイム時間帯を避けた可能な限り早い時間に掲示するようお願いいたします。
- ・コアタイムは、9月8日(土)は15:30～17:00、9月9日(日)は11:00～12:30です。ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され、自分の該当するコアタイムでは、ポスターの前で発表を行って下さい。
- ・ポスターの撤収は9月9日(日)の12:30からの30分間で実施して下さい。掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は、実行委員がポスターを取り外します。取り外したポスターは、大会期間中は実行委員会で保管いたしますが、大会後は処分します。
- ・ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けません。発表当日に各自で持参してください。ポスターを貼り付ける押しピン、セロテープは会場に準備しています。指示棒などは各自持参してください。
- ・PCなどの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが、電源はありません。また大きな音の鳴るデモンストレーションなど、周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください。

・ELR 2012 東京ではポスター賞を設けることにしています。研究の内容、ポスターのデザイン、プレゼンテーションのわかりやすさなどでポスター賞を選定いたします。ポスター賞に選定された方は、9日(日)の懇親会で表彰いたします。

《総会》

- ・日時：9月9日(日) 13:00～ (3学会とも同じ時間の開催です)
- ・日本緑化工学会：131 教室，日本景観生態学会：132 教室，応用生態工学会：141 教室です。

《懇親会》

- ・日時：9月9日(日) 18:00～
- ・会場：レストランすずしろ(東京農大キャンパス内，公開シンポジウム会場の隣)
- ・懇親会中にポスター賞の表彰を行います。

《資材・工法展示 / 書籍販売》

8日(土)および9日(日)は，1号館会場において資材・工法展示(1階中央ホール)および書籍販売(2階中央ホール)を行っています。発表の合間にご覧ください。

○出展者：エスペックミック株式会社

内容：在来種を使用した野草マットの紹介および温湿度・土壌水分・気象計の紹介

○出展者：ICT インターナショナル

内容：植物の水ポテンシャルを連続的に測定する PSY ステムサイクロメータをはじめとする環境計測機器や樹木の展示(植物の蒸散活動と関係のある樹木内の樹液流を簡易に測定する樹液流速測定器，生木に直接設置し時系列測定する樹木水ポテンシャル測定器など)

○出展者：太陽計器株式会社

内容：Campbell 社製 データロガーCR1000-4Mをはじめとするデータロガーおよび各種計測機器の紹介

○出展者：タフグリーン工法研究会

内容：“生物多様性”に配慮した，荒廃地での植生回復緑化工法であるタフグリーン工法の紹介

○出展者：紅大貿易株式会社

内容：緑化用種苗の取扱いに関するパネル，一部種子実物，関連物展示

上記の資材・工法展示に加え，以下の企業様がカタログ展示・書籍販売を実施しています

●カタログ展示

カネコ種苗株式会社，日新産業株式会社，株式会社高特

●書籍販売

一般社団法人京都大学学術出版会，有限会社さくま書店

《公開シンポジウム「災害と自然再生」》

災害復興と自然再生は対立するのか、両立するのか？ かつての「経済か環境か」を彷彿とさせる問題が2011年の東日本大震災などの大災害を契機に我々に突き付けられています。防災施設や住宅地の整備は地域復興のために切実な課題ですが、ハード一辺倒の整備は大規模な地形改変やエコトーン分断を通して生物多様性を損なうおそれがあります。一方、災害の危険性が高い場所からの集約的土地利用の撤退や事前回避は、長期的に見ると防災のための緩衝帯と自然再生の用地を兼ねた土地を生み出す可能性があります。本シンポジウムでは、以上のような問題意識のもと、防災・減災と自然再生の関係を災害現場の状況を踏まえながら熱く議論したいと思います。

- ・日 時：9月9日(日) 14:00~17:45 3時間45分(予定)
- ・会 場：農大100周年記念講堂
- ・参加費：無料
- ・全体司会：藤田直子(九州大学)

◇第一部 話題提供

- 「巨大津波は生態系をどう変えたか」：永幡嘉之氏(東京大学農学生命科学研究科 特任研究員)
- 「海岸防災と生態系(仮)」：佐藤慎司氏(東京大学大学院教授 工学系研究科社会基盤学専攻)
- 「海岸+河川×自然環境+景観(仮)」：川村謙一氏(国土交通省東北地方整備局河川部 河川調査官)
- 「三陸復興国立公園」：佐々木真二郎氏(環境省自然環境局国立公園課 公園計画専門官)

..... 休憩

◇第二部 パネルディスカッション

進 行：日置佳之

コメント：藤田光一氏(応用生態工学会)、小林達明氏(日本緑化工学会)、
鎌田磨人氏(日本景観生態学会)

討 論：総合コメンテーター 森本幸裕氏(京都学園大学)

《研究集会》

3学会(日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会)に所属する会員から、7つの研究集会が企画されています。集会には所属学会によらず参加でき、事前申込は不要です。

●「原子力災害被災地の生態再生(I) 一里山ランドスケープの放射能と除染ー」

- ・企画：日本緑化工学会 小林達明(千葉大)、水庭千鶴子(東農大)、大内公安(ライト工業)、
星澤保弘(日本植生)
- ・日時：9月8日(土) 10:00~12:00 会場：242教室
- ・内容：東電福島第一原子力発電所事故による放射性物質の自然環境中への大規模拡散は、わが国が初めて体験する国難的事態である。世界的には1986年のチェルノブイリ原発に次ぐものだが、地形や気候・社会状況が全く異なるわが国では事象を新たに検証し、解決のためにさまざまに

工夫をこらす必要がある。とりわけ、森林や住宅・農地周辺の法面の取扱い方針は定まっておらず、早急にかつ幅広く知恵の結集が必要とされている。本集会では、事故後、実際に福島に入って研究・対策にあたっている諸氏に集まっただき、生活圏としての里山ランドスケープという観点から放射能の分布・動態に関わる現時点の知見を整理し、今後の対策のあり方について検討する。

- ・集会企画趣旨説明：小林達明

里山流域単位の除染を目指した GIS 整備：近藤昭彦（千葉大環境 RS 研センター）

都市緑地の除染：水庭千鶴子

農地と法面の除染：大内公安

里山林縁のり面の浸食・放射能移行防止：星澤保弘

- ・コメント：小川泰浩（森林総研）ほか専門家を予定

● 植物を用いた被災者支援 — 農学系学生による活動報告 —

- ・企画：日本緑化工学会 緑・健康研究部会 岩崎 寛，飯島健太郎，今西純一，山本 聡

- ・日時：9月8日(土) 17:00～19:00 会場：132 教室

- ・内容：昨年度、緑化工学会の緑・健康研究部会では「被災者に対するメンタルケアとしての緑化・植物」というテーマで研究集会を開催し、災害看護の専門家をお招きし、緑・健康研究部会のメンバーを中心に、被災者に対するメンタルケアとしての緑化・植物について検討を行いました。あれから一年、被災地では多くの支援活動が行われてきました。支援活動には時間とエネルギーが必要であることから、若い学生の活動が、今後さらに必要になると考えられます。そこで今回の研究集会では、農学系の学生が自らの専門性を活かして実施している支援活動を報告していただき、現状や課題について議論し、今後の支援活動に繋げていければと考えております。大学生だけでなく、福島県の高中生や、農業系大学の卒業生の活動報告も予定しています。多くのご参加をお待ちしております。

- ・話題提供者（予定）

福島県立明成高校 教諭および同高校農業クラブ草花班の高校生

千葉大学園芸学研究科環境健康学領域の大学生

兵庫県立淡路景観園芸学校の修了生 ほか

- ・コメンテーター：中村家子（東洋大学・臨床心理士，看護師）

- ・司 会：岩崎 寛（千葉大学大学院園芸学研究科）

● 魅力的なテキストをつくろう！

- ・企画：応用生態工学会 テキスト刊行準備委員会 萱場祐一（準備委員会代表，土木研究所）

- ・日時：9月8日(土) 18:00～19:30 会場：243 教室

- ・内容：応用生態工学会では、応用生態工学に関する情報を積極的に発信し、学会員へのサービス向上、学会員増加を図ることを目的として、応用生態工学のテキスト刊行を計画しています。本計画は応用生態工学会第3次中期計画の一つとして位置付けられており、幹事会においてもテキストの内容等について検討を重ねてきました。また、平成24年3月にはテキスト刊行準備委員

会が発足し、テキスト刊行に向けた具体的な取り組みを開始しています。本自由集会では、テキスト刊行の経緯や考え方、想定するユーザーやテキストの活用方法、テキストの目次やその概要について情報提供を行うとともに、これらについて集中的な議論を行い、結果をテキストづくりに反映させたいと考えています。会員の皆様は奮ってご参加ください。

● 共同による震災後の生態系変化の把握 — 調査データの集積と共有を可能にするプラットフォームづくりをめざして —

・企画：日本景観生態学会 東日本大震災復興支援特別委員会 鎌田磨人（委員長，徳島大），藤田直子（九州大）

・日時：9月10日(月) 9:00～12:00 会場：132 教室

・内容：先の震災と津波によって被災地の生態系は大きな影響を受けた。復興の核となる地域の生態系がどこにどのように残存しているのかという情報は、出来るだけ多くの人々に認識されるとともに、今後の地域計画や各種政策へも反映されるべきものである。これまで、様々な主体によって様々な生態調査活動が行われてきたが、個々の調査結果がバラバラに存在している状態では、価値ある情報が認知されないまま埋もれてしまう可能性を否定することはできない。早急に、地域の生態系情報を集積・共有して異なる主体で共有するための環境づくり、地域自治体や市民がそれらの情報を活用できるような環境づくりが求められる。それを実現させるためには、プラットフォーム（Platform；異なる情報を一元的に管理・公開するための基盤や土台となるもの）が必要となってくる。本研究集会では、『各主体がどのような調査を行なってきたか』の情報共有を行い、それを元にした『主体間の連携』と『共通プラットフォームづくりへの道』を議論することを目的とする。

今回の研究集会では、まず各主体が行なってきた地域の生態調査活動について、1) 何を目的として、2) どこでどのような調査を行なっているのか、3) そのデータはどのような構造で集約されているのか、4) 調査結果をどのように発信し誰に伝えようとしているのか、という情報を共有した上で、各主体が行なってきた地域の生態系情報を集積・共有して異なる主体で共有することを目指し、web GISの整備を含めた共同活動に発展させていくための展望や課題を協議する。

・話題提供者：糸谷正俊（社叢学会）、鎌田磨人（景観生態学会）、小此木宏明（NACS-J）、佐藤直人（生物多様性センター）、原 慶太郎（景観生態学会）、原 正利（植生学会）、平吹喜彦（南蒲生モニタリングネットワーク）、増澤 直（景観生態学会）（予定，50音順）

● 小さな自然再生が中小河川を救う！

・企画：応用生態工学会 林 博徳

・日時：9月10日(月) 9:00～11:00 会場：141 教室

・内容：河川的环境再生には、縦横断方向の広域ネットワークの再生や氾濫原環境の再生などに代表される広域空間スケールでの河川システムを再生することが重要である。河川環境の“再生”は、英語では“restoration”という言葉が用いられることが多い。一方、水制等の構造物を導入したり、魚道を付けたりといったような部分的な環境再生のアプローチには、一般に、“in-stream

restoration”あるいは“minor restoration”等の言葉が用いられている。これらの再生手法による環境再生は、近自然工法が河川に導入され、多自然型川づくり始まった当初、本邦でも数多く実施された。しかしながら、その後“in-stream restoration”の効果はrestorationに比べて限定的とされる見解が一般的となり、現在では注目度が小さくなったように感じている。しかし、一方でin-stream restorationは、①大規模な改修を必要としないので、安価で手軽に導入が可能、②空間が限定されている河川でも導入が可能、③発揮する機能の種類は限定的でも、ある機能については大きな効果を発揮することがある、④河川規模の比較的小さい河川におけるインパクトは多きい、⑤河床・河岸の安定、など河川環境改善のツールとして有効である側面も多いものと思われる。本自由集会では、in-stream restorationの手法を“小さな自然再生”と呼び、その導入事例を紹介し、その価値について見直すとともに、効果的な導入のあり方等について議論したい。

・話題提供者

バープ工 (共生センター・萱場祐一)

兵庫県の取り組み (兵庫県立博物館・三橋弘宗)

冬季湛水田における取り組み (九大・横内良介)

上西郷川における取り組み ウッディデブリ, 巨石, 落差工 (九大・林 博徳)

● 生物多様性保全に寄与する地域性種苗の確保に関する取り組み —三陸地域の復興を主な視点に—

・企画：日本緑化工学会 生態系保全研究部会 中島敦司, 夏原由博, 入山義久, 橘 隆一, 吉原敬嗣, 中村華子

・日時：9月10日(月) 9:00~10:30 会場：142 教室

・内容：生態系保全研究部会では、今年からの新メンバーで研究集会を企画しました。事業者、市民、住民など「実際に扱う」、「実際に触れる」視点に重心を置いて、生物多様性・地域性種苗に関連するテーマの研究集会を重ねたいと考えています。

東北地方太平洋側、三陸地域での遠い将来にわたっての復興を見据え、これまで実際に地域性種苗の確保に向けて行われてきた取り組みを紹介し、レビューしなおします。寒冷湿地、自然公園内での種苗確保の取り組み、そして地域性種苗の活用のために必要な環境整備についてこれまで取り組んだ事例を紹介し、課題を出し合い、議論したいと思います。多くのご参加をお待ちしております。

・話題提供

法面緑化用種苗の現地採取：福田尚人 (岩手大学大学院連合農学研究科)

ゴルフ場に残存させた自生個体からの種子採取：吉原敬嗣 (紅大貿易株式会社)

寒冷地でのヨシの再生・種苗の生産に関する取り組み：内田泰三 (九州産業大学)

・コメント

築瀬知史 (高速道路総合技術研究所), 入山義久 (雪印種苗株式会社) ほかを予定

● 斜面緑化研究部会がめざす法面緑化の新たなルール作り(その2)ー法面の自然回復緑化の最前線 モニタリングと評価ー

・企画：日本緑化工学会 斜面緑化研究部会

・日時：9月10日(月) 10:30～12:00 会場：142 教室

・内容：斜面緑化研究部会は、日本緑化工学会が2002年に公表した「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言」を受けて、2004年に「のり面における自然回復緑化の基本的考え方」とりまとめ」を発表して以降、斜面における自然回復緑化にスポットを当てた研究集会やシンポジウムを開催し、議論を重ねてきた。斜面緑化に対するさまざまな問題点が指摘される中で、“緑化目的・目標が不明確であること”と“緑化目的・目標に適合した検査基準が整備されていないこと”が大きな問題であり、早急に解決すべきことがあぶり出されてきた。従来の侵食防止を主目的とする早期全面緑化と、地域生態系の回復を主目的とする自然回復緑化では、工事での取り組み方法は大きく異なり、自然回復緑化では緑化目的に応じた施工法、検査法、維持管理が必要である。こうした基本的な考え方が非常に曖昧であるために、現場で混乱が生じていると理解された。

本研究集会では、平成24年1月31日に実施した研究集会「斜面緑化研究部会がめざす法面緑化の新たなルール作り」の第二弾として、最近の自然回復緑化事例に対するモニタリングおよびその評価について報告する予定でいる。

《エクスカージョン》

ELR 2012 東京では、3学会（日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会）合同のエクスカージョン（現地見学会）を実施します。解説者は3学会の会員が中心となってご案内します。大会共通テーマ「災害と自然再生」を視野に、東京臨海部の防災や液状化被害について、さらに北総地域の自然環境・地形・地質、津波の被害と海岸林の効果などが見学内容です。この見学会は、大会に参加する会員がさらに研鑽を積むための実地見学会ですが、一般の方の参加も歓迎致します。基本コースは1泊2日ですが各日とも日帰り参加可能です。この機会にぜひご参加下さい。

・日 時：9月10日(月) 午後～平成24年9月11日(火) 終日

・宿 泊：1泊2日、ただし、各日とも1日のみの参加・日帰り可

・見学地：東京湾岸、九十九里、下総台地

<スケジュール>

9月10日(月)

東京農大発 → 東京臨海広域防災公園(有明地区) → 千葉県浦安市・地盤液状化被害地 → (森ヶ崎水再生センター(車中)) → サンライズ九十九里(宿泊)

9月11日(火)

サンライズ九十九里 → 屏風ヶ浦 → 飯岡灯台・飯岡市街 → 九十九里砂防林 → 寒菊(酒蔵見学と昼食) → 成東食虫植物群落 → 千葉市若葉区大草町里山 → 蘇我駅・解散

- ・定員：40名（申込み順，要事前申し込み）
- ・参加費：9月10～11日 1泊2日コース：15,000円（バス代，宿泊費，食事）
※ 飲み物は別途必要（10日夕食の飲み物代は，2,000円程度徴収予定）
9月10日 半日コース : 3,000円（バス代）
9月11日 一日コース : 6,000円（バス代，昼食代）
- ・宿泊：国民宿舎 サンライズ九十九里 <http://www.sunrise99.jp/>

《その他のお知らせ》

- ・日本緑化工学会の講演要旨集（ELR 2012 東京の講演要旨集とは異なります）を受付にて販売しております。また，ELR 2012 東京の講演要旨集だけの販売も行っております。
- ・昼食（学内）は，8日（土）・9日（日）はレストランすずしろ（10:00～14:00）のみ，10日（月）はレストランすずしろ（9:00～15:00）とカフェテリア・グリーン（11:00～14:00），生協の売店などが利用できます。なお，土日の2日間は，限定数量ですがお弁当も販売いたします。
- ・喫煙は指定の場所で行ってください（屋外に数カ所設置しています）。
- ・航空券や宿泊などの手配については，参加者各自で行ってください。

《ビジネスミーティング》

- ・数多くのビジネスミーティングが予定されています（緑化工学会：3件，応用生態工学会6件，景観生態学会：4件，LEE：1件，ELR 2012：1件）。
- ・ビジネスミーティングに参加する必要がある各位は，会場対応表に時間帯と部屋番号を整理してありますので，ご確認ください。

《会場へのアクセス》

・山手線利用

◆ 渋谷駅下車（渋谷駅西口）

- バス <渋谷駅 → 農大前>（30分位）

小田急バス 成城学園前駅西口行……（渋24） 調布駅南口行……（渋26）

東急バス 成城学園前駅西口行……（渋24） 祖師ヶ谷大蔵駅行……（渋23）

・小田急線利用

◆ 経堂駅下車

- 南へ徒歩約15分

◆ 千歳船橋駅下車

- 南へ徒歩約15分

- または，東急バス <千歳船橋駅 → 農大前>（5分位）

渋谷駅行……（渋23） 等々力操車所行……（等11） 用賀駅行……（用01）

・東急田園都市線利用

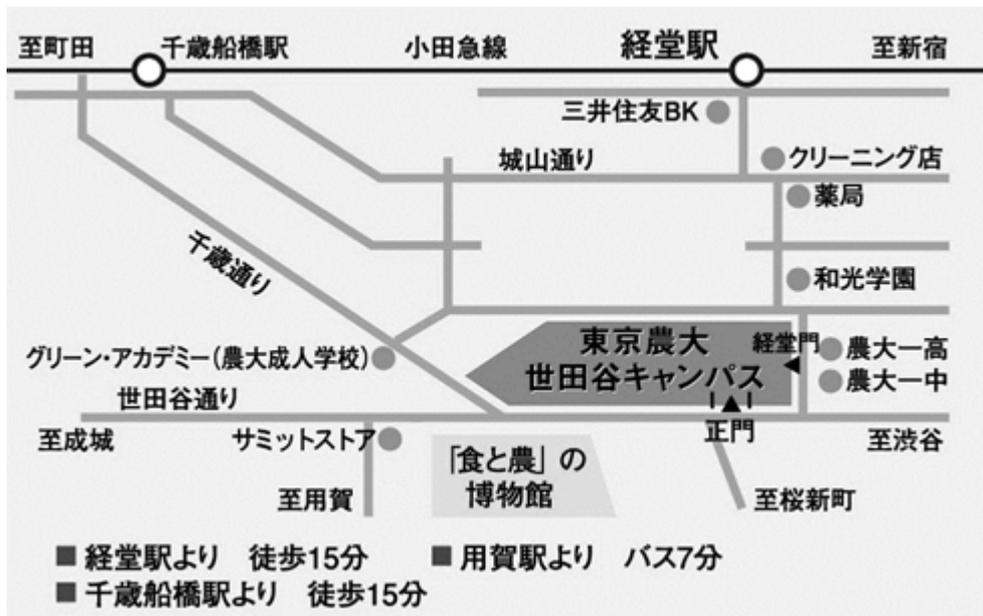
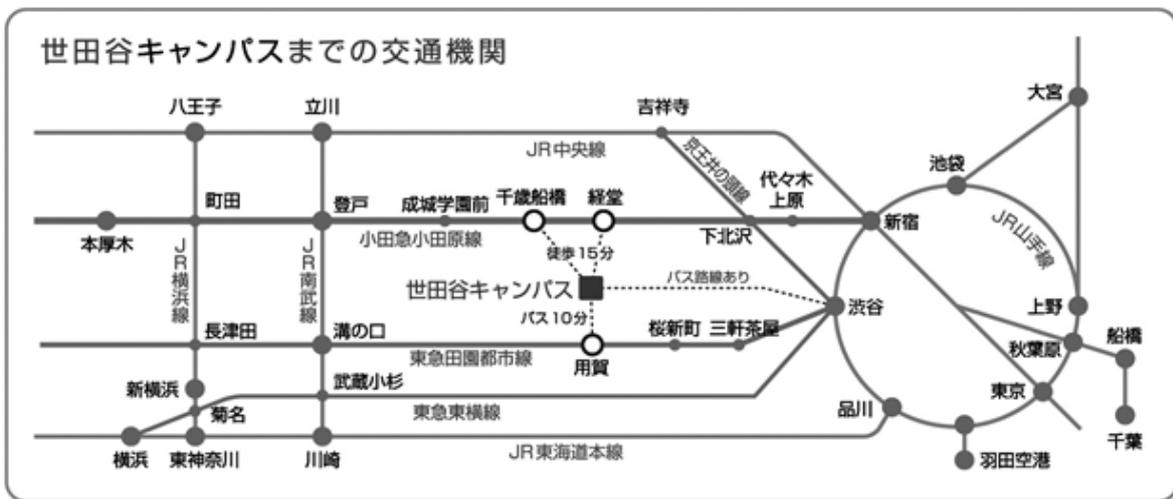
◆ 用賀駅下車

- 徒歩約 25 分
- または、東急バス <用賀 → 農大前> (10 分位)
世田谷区民会館行…… (園 02) 祖師ヶ谷大蔵駅行…… (用 01)

・東急東横線利用

◆ 田園調布駅下車

- バス <田園調布駅 → 農大前> (40 分位)
世田谷区民会館行…… (園 02)

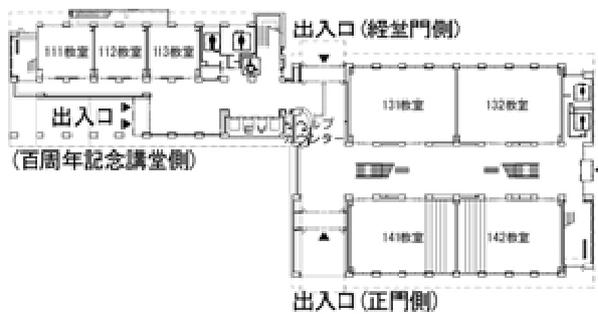


<小田急線最寄駅から東京農大世田谷キャンパスまでの経路>

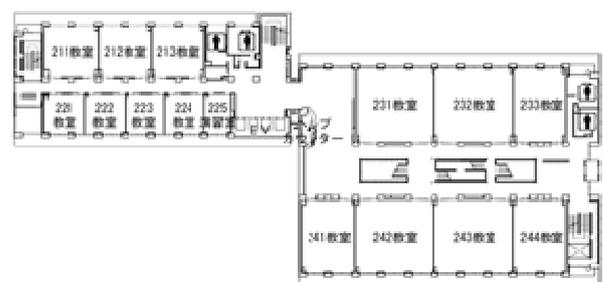


<東京農業大学世田谷キャンパス 構内図>

1階



2階



<1号館 教室配置図>

《各種会場と時間割》

＜プログラム・会場対応表＞

9月8日(土)

1階 教室番号	2階 教室番号	使用目的	9時 0 30	10時 0 30	11時 0 30	12時 0 30	13時 0 30	14時 0 30	15時 0 30	16時 0 30	17時 0 30	18時	19時 0 30
131		口頭発表					①都市	①都市	③多様性	⑨生理			
132		口頭発表					②RD	②RD	②RD	②RD	⑩水質		
141		口頭発表					⑤再生	⑤再生	⑤再生	⑤再生			
142		口頭発表					⑧計画	⑧計画	⑧計画	⑧計画			
111													
112		大会実行委員会											
113		休憩・控え室											
	231	ポスター会場								ポスターコア			
	232	ポスター会場								ポスターコア			
	242	研究会		集会: 里山とランドスケープの放射能								集会: 植物を用いた被災者支援	
	243	研究会									応用: テキスト刊行委員会	集会: 魅力的なテキスト	
	211	会議室(緑化)	緑化: 理事会				緑化: 評議員会						
	212	会議室(応用)					応用: 会誌編集委員会						応用: 将来構想委員会
	213	会議室(景観)	景観: 企画交流委員会		景観: 編集委員会						景観: 特別委員会	景観: 運営委員会	
	222	控え室(緑化)											緑化: 編集委員会
	223	控え室(応用)					応用: 理事会/幹事会				応用: 国際交流委員会		
	224	控え室(景観)											

9月9日(日)

1階 教室番号	2階 教室番号	使用目的	9時 0 30	10時 0 30	11時 0 30	12時 0 30	13時 0 30	14時 0 30	15時 0 30	16時 0 30	17時 0 30	18時	19時 0 30
131		口頭発表	⑨生理	⑨生理	⑨生理	⑨生理		緑化: 総会					
132		口頭発表	⑩水質	⑩水質	⑩リサイクル			景観: 総会					
141		口頭発表	⑬防災	⑬防災	⑬防災	⑬防災		応用: 総会					
142		口頭発表	⑧計画	⑧計画	⑧計画	⑩教育							
111		公開シンポジウム控え室				公開シンポジウム控え室							
112		大会実行委員会											
113		休憩・控え室											
	231	ポスター会場				ポスターコア							
	232	ポスター会場				ポスターコア							
	242												
	243												
	211	会議室(緑化)											
	212	会議室(応用)				応用: 普及・連携委員会							
	213	会議室(景観)											
	222	控え室(緑化)											
	223	控え室(応用)											
	224	控え室(景観)											
		百周年記念講堂								公開シンポジウム「災害と自然再生」			
		レストランすずしろ											懇親会/ポスター表彰

9月10日(月)

1階 教室番号	2階 教室番号	使用目的	9時 0 30	10時 0 30	11時 0 30	12時 0 30	13時 0 30	14時 0 30	15時 0 30	16時 0 30	17時 0 30	18時	19時 0 30
132		研究会	集会: 震災による生態系変化										
141		研究会	集会: 小さな自然再生が中小河川を救う										
142		研究会	集会: 地域性種苗の確保	集会: 法面緑化の新たなルール									
										エクスカーション			

《ELR 2012 東京 実行委員会》

実行委員長 中村 幸人(東京農業大学)

実行委員 (50音順)

日本緑化工学会: 岩崎 寛, 柴田昌三, 橋 隆一, 田中賢治, 中島敦司(代表幹事), 中村彰宏, 中村華子, 夏原由博, 福永健司, 水庭千鶴子, 村上健太郎

日本景観生態学会: 石井正人, 井本郁子, 入江彰昭, 鎌田磨人(代表幹事), 下嶋 聖, 日置佳之(代表幹事)

応用生態工学会: 浅枝 隆, 浦川苑子, 久保市浩右, 高橋眞彦, 知花武佳, 西 浩司, 藤田光一(代表幹事)

《参加申込みについて》

(1) 参加申込

・応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」から、8月27日(月)までにお申し込み頂き、参加費のお振り込みもお願いします。 お振り込みが27日を過ぎますと、名簿作成の関係から当日参加扱い(参加料:6,000円)となりますので、ご注意ください。

FAX・E-mailによるお申込は、別紙『参加・発表申込書』にご記入の上、下記までお申込下さい。

FAX・E-mailでのお申込

申込先	: ELR2012 東京 三学合同大会実行委員会
E-mail	: elr2012@jsrt.jp
FAX	: 03-3818-8282 (幹事学会: 緑化工学会事務局)

(2) 参加料

大会参加料 : 正会員・賛助会員 : 5,000円 (当日参加 : 6,000円)
学生会員 (非会員を含む) : 2,000円
非会員 (一般) : 10,000円
※ 大会参加費には、資料代 (発表要旨集) が含まれます。

懇親会参加料 : 正会員・賛助会員・非会員 (一般) とともに一律 5,000円
学生会員 (非会員を含む) 3,000円

エクスカージョン : 1泊2日コース : 15,000円 (バス代, 宿泊費, 食事)

◇ 飲み物は別途必要 (10日夕食の飲み物代は、2,000円程度を徴収予定)

半日コース : 3,000円 (バス代)

一日コース : 6,000円 (バス代, 昼食代)

●参加料振込先

<ゆうちょ銀行からの振込の場合>

■口座名 : ELR2012 東京実行委員会

■口座番号 : 00110-4-750454

<銀行からの振り込みの場合>

■銀行名 : ゆうちょ銀行 当座

■金融機関コード : 9900

■店番 : 019

■店名 : 〇一九店 (ゼロイチキユウ店)

■口座番号 : 0750454

(イーエルアールジッコウイインカイ)

※会員の皆様には、大会案内が例年に比べて遅れておりますことを、お詫び申し上げます。

－ 研 究 プ ロ グ ラ ム －

(注) 詳細については変更の可能性有り

口頭発表 9月8日(土)

時間	131 会場	132 会場
12:50	合同大会趣旨説明	合同大会趣旨説明
	都市の自然と環境	希少な生物の保全
13:00	<p>O1-1-1 学校プールに形成される水生昆虫相の成立要因に関する研究</p> <p>○森川政人(千葉大学大学院園芸学研究科(現:環境省)、小林達明、相澤章人(千葉大学大学院園芸学研究科))</p>	<p>O1-2-1 樹林化の進む高知市種崎海岸におけるハマボウフウの個体群存続可能性分析</p> <p>○楠瀬雄三、石川慎吾(高知大学大学院総合人間自然科学研究科)</p>
13:15	<p>O1-1-2 夏期の都市域における街路樹の光合成低下とその要因について</p> <p>○半場祐子、籠谷優一、藤野貢(京都工芸繊維大学)</p>	<p>O1-2-2 大阪南部におけるハマヒルガオの花形態変異と個体群面積との関係</p> <p>○楠瀬雄三(高知大学大学院総合人間自然科学研究科)、長谷川匡弘(大阪市立自然史博物館)、村上健太郎(名古屋産業大学環境情報ビジネス学部)</p>
13:30	<p>O1-1-3 屋上植栽基盤における剪定枝由来堆肥の利用可能性</p> <p>○田代友利華(千葉大学大学院園芸学研究科)、永瀬彩子(千葉大学大学院工学研究科)、高橋輝昌(千葉大学大学院園芸学研究科)</p>	<p>O1-2-3 リシリヒナゲシと自生地に着した近縁の栽培ヒナゲシの種子発芽と生育特性の比較</p> <p>○大沼弘樹(北海道大学大学院農学院)、近藤哲也(北海道大学大学院農学研究科)、吉田理恵(北海道大学大学院農学院)、山岸真澄(北海道大学大学院農学研究科)</p>
13:45	<p>O1-1-4 屋上緑化植物としてのナワシロイチゴの初期生育に関する研究</p> <p>○黒田貴綱、渡辺原野、菅沼拓也、勝野武彦(日本大学生物資源科学部)</p>	<p>O1-2-4 コギシギシ(<i>Rumex nipponicus</i> Franch. Et Sacat.) 個体群の成立と土地利用形態</p> <p>○與猶久恵(九州産業大学大学院工学研究科)、内田泰三(九州産業大学工学部)、荒瀬輝夫(信州大学農学部)、早坂大亮(国立環境研究所)</p>
	生物多様性の保全	
14:00	<p>O1-1-5 階層的スケール設定に基づく鳥類群集の種多様性評価</p> <p>○相澤章仁、大山ゆりあ、小林達明(千葉大学園芸学研究科)</p>	<p>O1-2-5 里山の指標種ワレモコウの遺伝的変異</p> <p>○佐伯いく代(横浜国立大学)、飯田晋也(横浜市役所)、小池文人、小林慶子、平塚和之(横浜国立大学)</p>
14:15	<p>O1-1-6 流域スケールにおけるβ多様性維持機構の解明 - 水生昆虫群集と湧水河川に着目して</p> <p>○渡辺のぞみ、根岸淳二郎(北海道大学大学院環境科学院)、布川雅典(北海道大学大学院農学研究科)</p>	<p>O1-2-6 東京都内の雑木林におけるキンラン移植株のモニタリング結果と知見</p> <p>○木村研一((株)ピー・シー・イー)、山崎旬(玉川大学農学部)、遊川知久(国立科学博物館筑波実験植物園)、倉本宣(明治大学農学部)</p>
14:30	<p>O1-1-7 氾濫原環境の量的復元へむけて: 流況と河床地形対策の相対的重要度</p> <p>○根岸淳二郎(北海道大学大学院地球環境科学研究院)、萱場祐一((独)土木研究所自然共生研究センター)、中村太士(北海道大学農学研究科)</p>	<p>O1-2-7 河川横断構造物が回遊性カジカ類の分布に与える影響</p> <p>岩崎雄介、○田原大輔(福井県立大学海洋生物資源学部)</p>
14:45	<p>O1-1-8 熊本県上益城郡益城町の冬期湛水田に設置された“田内池”の効果について</p> <p>○横内良介(九州大学工学部)、山下奉海(九州大学工学研究科)、兵頭拓(九州大学工学部)、島谷幸宏(九州大学工学研究科)</p>	<p>O1-2-8 トキの営巣・採餌環境からみた自然再生候補地の選定 - 韓国と能登半島の事例 -</p> <p>○望月翔太、村上拓彦、関島恒夫(新潟大学)、遠藤千尋(京都産業大学)</p>
	生物の基本性質や生理	
15:00	<p>O1-1-9 ダムと温暖化が知床半島の冷水性魚類に及ぼす影響</p> <p>○河口洋一(徳島大・院・シオクワサイエンス研究部)、谷口義則(名城大学・理工学部)</p>	
15:15	<p>O1-1-10 水位操作がコイ科魚類の産卵に与える影響のモデル解析と実操作への活用</p> <p>○佐藤祐一(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)</p>	

口頭発表 9月8日(土)

時間	141 会場	142 会場
	合同大会趣旨説明	合同大会趣旨説明
	水質保全の理論と技術	モデリング/計画/調査手法
12:50		
13:00	<p>O1-3-1 曝気循環によるピコプランクトンの抑制効果 ○今本博臣、吉口進朗、田作光良 ((独) 水資源機構)</p>	<p>O1-4-1 河床変動シミュレーションを用いた奥川自然再生事業の評価 ○赤松良久、松尾優也 (山口大学)、宮良工 ((一財) 沖縄県環境科学センター)</p>
13:15	<p>O1-3-2 多摩川における土壌および栄養塩収支に関する研究 ○太田浩介、浅枝隆(埼玉大学)</p>	<p>O1-4-2 河道掘削工事における玉石の河床還元とテレメトリ法による追跡 ○原田守啓 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)、大井照隆 (大日コンサルタント (株))、加藤忠士 (岐阜県岐阜土木事務所)、松本省吾 (岐阜県河川課)</p>
13:30	<p>O1-3-3 Food web structures with a particular reference to freshwater Gobies in the Agi-gawa river system with a dam ○Takashi TASHIRO, Tetsuro TSUJIMATO (Nagoya University), Koshi YAMADA (Yachiyo Engineering Co.,Ltd)</p>	<p>O1-4-3 瀬戸内海流入河川汽水域におけるRL掲載ハゼ類の生息適地推定 ○乾隆帝 (徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)、竹村紫苑 (徳島大学大学院先端技術科学教育部)、鬼倉徳雄 (九州大学農学研究院)、鎌田磨人 (徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)</p>
13:45	<p>O1-3-4 Phytoremediation of cadmium by Chara and impact of calcium encrustation ○Mizuki Komori, Takashi Asaeda (Department of Environmental Science and Technology, Saitama University)</p>	<p>O1-4-4 水系ネットワークにおける魚類群集のパターンに対する自然的・人為的影響 ○森照貴 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)、上野公彦 ((財) ダム水源環境整備センター)、高岡広樹 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)、佐川志郎 (兵庫県立大学自然環境科学研究所)、萱場祐一 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)</p>
14:00	<p>O1-3-5 Effect of calcium and magnesium on growth and calcite encrustation of <i>Chara fibrosa</i> ○Nowrose Jahan Lipi, Takashi Asaeda (Department of Environmental Science and Engineering, Saitama University)</p>	<p>O1-4-5 広域スケールにおける魚類の種組成に対するダムの影響 ○加藤康充、小野田幸生、森照貴 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)、一柳英隆 ((財) ダム水源環境整備センター)、萱場雄一 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)</p>
14:15	<p>O1-3-6 Growth responses of <i>Elodea nuttallii</i> by nitrogen uptake from different concentration of ammonium nitrogen source under diverse oxygen stress environments ○Tanjeena Zaman, Takashi Asaeda (Department of Environmental Science, Saitama University)</p>	<p>O1-4-6 全国データからみたダム上流と下流の底生動物群集の違い ○小林草平 (京都大学)、増本みどり、赤松史一 (土木研究所)、三輪準二 (河川環境管理財団)</p>
14:30	<p>O1-3-7 Effect of different forms of nitrogen on a floating leaved aquatic Macrophyte; <i>Trapa japonica</i> ○Muhammad Maniruzzaman, Takashi Asaeda (Department of Environmental Science, Saitama University)</p>	<p>O1-4-7 カモ類の越冬分布を規定するマルチスケールの環境要因 ○荒木田葉月 (徳島大学環境防災研究センター)、神山和夫 (NPO 法人パードリサーチ)</p>
	自然再生の理論と技術	
14:45	<p>O1-3-8 谷津田を流れる小河川の魚道の改良 ○美濃和信孝、高橋泰一、百目木純子、真船真三 (畔田谷津ワークショップ)</p>	<p>O1-4-8 河川水辺の植生景観単位と水環境評価 ○大野啓一 (元横国大・院・環情)、三浦佳林 (横国大・院・環情)</p>
15:00	<p>O1-3-9 河口域における自然再生デザインについて — 遠賀川における魚道および周辺環境の設計プロセス— ○伊東啓太郎 (九州工業大学大学院環境デザイン研究室)、山口英彦 (国土交通省遠賀川河川事務所)、奏祐二、井出孝亮 (九州工業大学大学院工学府)</p>	<p>O1-4-9 タイ・バンコク近郊における2011年洪水時氾濫地域の緑被変動状況の把握 ○横田樹広 (清水建設 (株) 技術研究所)、原祐二、土屋一彬 (和歌山大学システム工学部)</p>
15:15	<p>O1-3-10 上西郷川における河道内構造物を用いた瀬淵環境再生の取り組み ○林博徳、島谷幸宏 (九州大学大学院工学研究院)、岩瀬継 (福岡市役所)</p>	<p>O1-4-10 北海道に大面積で存在するクマイザサ草地のカスケード利用に向けた取り組み ○小路敦 ((独) 農研機構・北海道農業研究センター)</p>

口頭発表 9月9日(日)

時間	131 会場	132 会場
	生物の基本性質や生理	自然再生の理論と技術
9:00	<p>O2-1-1 豊平川における砂州地形とシロサケの産卵環境の関係について ○矢野雅昭、矢部浩規、林田寿文 ((独) 土木研究所 寒地土木研究所水環境保全チーム)</p>	<p>O2-2-1 都市近郊の自然回復緑化地における微地形形成による林床植生の初期変化 -特にシダ植物に着目して- ○村上健太郎 (名古屋産業大学環境情報ビジネス)、森本幸裕 (京都大院地球環境学堂)、松井理恵 ((株) パシフィックコンサルタンツ)、大藪崇司 (兵庫県立大院緑環境マネジメント)、大石善隆 (信州大学)</p>
9:15	<p>O2-1-2 高水敷の掘削はイシガイ類の生息環境を再生するか～掘削高さと経過年数の影響～ ○永山滋也 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)、佐川志郎 (兵庫県立大学自然環境科学研究科)、萱場祐一 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)</p>	<p>O2-2-2 幼稚園の園庭における樹齢約 60 年のサクラ類の花付回復に係わる調査研究 ○小木曾裕 ((独) 都市再生機構/日本大学)、木樽稜 (東光園緑化 (株))、荻野淳司 (アゴラ造園 (株))</p>
9:30	<p>O2-1-3 木曽川中流域における河床低下が及ぼすオオシロカゲロウ(<i>Ephoron shigae</i>)の生息環境への影響 ○青木久美子、根岸淳二郎 (北海道大学大学院環境科学院)、永山滋也、萱場祐一 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)</p>	<p>O2-2-3 施工後 5～14 年を経過した階段金網植生工による緑化事例のモニタリング 池田昌義、○奥野倫太郎、香澤武 (日本基礎技術 (株))、山田守 (SPTEC・YAMADA)</p>
		リサイクル技術の応用
9:45	<p>O2-1-4 タニウツギ属・アジサイ属・ウツギ属低木類の種子発芽に対する光および温度の影響に関する実験 福永健司 (東京農業大学地域環境科学部)、○甲田遥 (東京農業大学大学院農学研究科)、橘隆一 (東京農業大学地域環境科学部)</p>	<p>O2-2-4 資源循環型緑化工法を用いた自然侵入促進工の植生モニタリング ○山田守 (SPTEC・YAMADA)、上野勝也、植松信行 (長崎県植物誘導研究会)</p>
10:00	<p>O2-1-5 Effects of added nutrients on the growth of kudzu in the floodplain of a regulated river ○Md H. Rashid (Dept. Env. Sci. & Technol., Saitama University)、Takashi Asaeda (Institute for Env. Sci. & Technol., Saitama University)</p>	<p>O2-2-5 すき取り物を利用したのり面緑化工法 ○佐藤厚子、西本聡 (土木研究所寒地土木研究所)</p>
10:15	<p>O2-1-6 Radiofrequency electromagnetic radiation alter chlorophyll fluorescence of Duckweeds ○Senavirathna MDH Jayasanka (Dept. Env. Sci. & Technol., Saitama University)、Takashi Asaeda (Institute for Env. Sci. & Technol., Saitama University)</p>	<p>O2-2-6 植生基材に生チップを混入した法面緑化工の北海道における適用性 ○兵庫利勇、前田俊一、佐藤厚子 ((独) 土木研究所寒地土木研究所)</p>
10:30	<p>O2-1-7 Invertebrate (<i>Isonychia japonica</i>) response to approach flow (an experimental study) ○Shah Prem、Norio Tanaka、Eiichi Furusato (Saitama University)</p>	<p>O2-2-7 伐採木を有効利用した資源循環型短繊維混入植生基材吹付工による野芝吹付事例 ○池田桂、長信也、大内公安 (ライト工業 (株))、松崎隆一郎 ((株) 新潟リアライズ)</p>
10:45	<p>O2-1-8 Delineation of Japan's ecologically-significant planning units (ESPU) based on dominant abiotic environmental factors and their patterns at multiple spatial scale ○S.F.CHEN、H.ISE (Regional Environmental Planning Inc.,Tokyo)、Y.MORIMOTO (Kyoto Gakuen University,Kyoto)、T.MASUZAWA (Regional Environmental Planning Inc.,Tokyo)</p>	

口頭発表 9月9日(日)

時間	141 会場	142 会場
	災害と生態系	モデリング/計画/調査手法
9:00	<p>O2-3-1 国有林における航空緑化工の施工実績調査報告 大澤学 (林野庁国有林野部/現 林野庁森林整備部) ○田中淳、田中賢治、田畑三郎、竹村文 (国土防災技術 (株))</p>	<p>O2-4-1 航空レーザスキャナを利用した広葉樹林及び針葉樹林における階層別植被率の推定 ○伊尾木慶子 (東京大学大学院農学生命科学研究科)、今西純一、佐々木剛、栄泳根 (京都大学大学院地球環境学学堂)、森本幸裕 (京都学園大学)</p>
9:15	<p>O2-3-2 火災近傍の樹木による背後での受熱量の低減効果に関する実験研究 ○林寿則 (国際生態学センター)、篠原雅彦、松島早苗 (消防研究センター)、藤原一絵 (横浜市立大学)</p>	<p>O2-4-2 地形によって規定される日照条件が奈良県吉野山のヤマザクラの生育状態に及ぼす影響 ○今西純一、金鉉埜、飯田義彦、奥川裕子、森本幸裕 (京都大学大学院地球環境学学堂・学舎)、山中勝次 (京都菌類研究所)、小島玉雄 (サン・アクト (株))</p>
9:30	<p>O2-3-3 海岸エコトーンの視座に基づく巨大津波被災地の植生モニタリング、そして復興モデル構築 ○平吹喜彦 (東北学院大学地域構想)、富田端樹 (東京情報大学環境情報)、菅野洋 ((株)宮城環境保全研究所)、原慶太郎 (東京情報大学環境情報)</p>	<p>O2-4-3 SSR 解析を用いた水際部におけるニセアカシアの繁殖特性の解明 ○星圭祐、浅枝隆、川合真紀 (埼玉大学応用生態工学研究室)</p>
9:45	<p>O2-3-4 南蒲生モニタリングサイトにおける大規模攪乱後の海岸林の状況と再生可能性 ○富田端樹 (東京情報大学)、平吹喜彦 (東北学院大学)、菅野洋 ((株)宮城環境保全研究所)、原慶太郎 (東京情報大学)</p>	<p>O2-4-4 プロビット解析を用いたストレス環境下でのセンリョウ起源弾性波の固定と評価 ○鈴木哲也、上野由樹 (新潟大学自然科学系 (農学部))</p>
10:00	<p>O2-3-5 東日本大震災の被災地の復興と自然再生に向けたモニタリング活動への空間情報の利活用 ○鎌形哲稔、赤松幸生 (国際航業)、原慶太郎、富田端樹 (東京情報大)、平吹喜彦 (東北学院大)</p>	<p>O2-4-5 山梨県で過去5年間に施工された緑化施工地はどのような状態にあるか? ○大津千晶 (山梨県森林総合研究所)、小林慶子 (横浜国立大学大学院)</p>
	環境教育と情報	
10:15	<p>O2-3-6 衛星データを用いた仙台平野における東日本大震災前後の景観解析 ○趙憶、富田端樹、原慶太郎 (東京情報大学)</p>	<p>O2-4-6 岩手県紫波町における屋敷林の配置と住民意識 ○竹原明秀、鷹鷲和智 (岩手大学人文社会科学部)</p>
10:30	<p>O2-3-7 東日本大震災被災地における生物多様性保全に配慮した景観再生—仙台平野を例として— ○原慶太郎、富田端樹、趙憶 (東京情報大学環境情報)、平吹喜彦 (東北学院大学地域構想)、菅野洋 ((株)宮城環境保全研究所)、平泉秀樹 (ラムサール・ネットワーク日本)</p>	<p>O2-4-7 湖沼の自然再生事業と学校教育 —霞ヶ浦の事例から ○山室真澄 (東大新領域)</p>

ポスター発表 9月8日(土) 15:30~17:00 231教室

都市の自然と環境

- P1-1-1 集合住宅における緑のカーテンの温熱環境改善効果研究
○加藤真司、桑沢保夫、石井儀光、樋野公宏((独)建築研究所)、橋本剛(筑波大学)、池田今日子((独)都市再生機構技術研究所)
- P1-1-2 屋上緑化の社会的便益と意匠デザインの関連性研究
○加藤真司((独)建築研究所)、鈴木弘孝(城西国際大学)、鈴木雅和(筑波大学)
- P1-1-3 屋上緑化薄層基盤軽量土壌の経年変化および栄養塩類の推移
○黒沼尊紀、橋本早織(千葉大学園芸学部)、千村隆太(千葉大学環境健康フィールド科学センター)、横川晴昭(千葉大学園芸学部)、坂本一憲(千葉大学大学院園芸学研究科)、渡辺均(千葉大学環境健康フィールド科学センター)
- P1-1-4 都市景観における保全・再生優先対象地の抽出手法の確立—一種の生態学的特性と景観の歴史性を指標として—
○曾我昌史(北海道大学)、小池伸介(東京農工大学)
- P1-1-5 プランター型屋上緑化工法に関する研究 増田拓朗(香川大学工学部)、
○坂本謙太(香川大学大学院工学研究科)、大塚恭平(四国化成工業(株))
- P1-1-6 グランドカバープランツを用いた除草軽減型緑化工法の開発
○長沼寛(日新産業(株))、肥後睦輝(岐阜大学地域科学部)、本多由里子、石田和広(日新産業(株))
- P1-1-7 つる性植物の棚仕立てにおける生育特性
○中村圭亨、遠藤直弥、渋谷圭助、佐藤澄仁(東京農総研)
- P1-1-8 4種の都市緑化低木における一酸化窒素の低減比較
○大藪崇司(兵庫県立大学大学院)、堀川真弘(トヨタ自動車(株))、国正あゆ(兵庫県立大学大学院)、津山幾太郎((独)森林総合研究所)
- P1-1-9 都市域におけるセミ類の生息状況と生息を規定する環境要因について
○徳江義宏、今村史子(日本工営(株))
- P1-1-10 中国・太湖水系における河川魚類群集の階層的類型化とその影響因子の推定
○佐藤辰郎、鹿野雄一、山下奉海、島谷幸宏(九州大学)

外来生物への対応

- P1-1-11 愛媛県道後平野における外来性底生動物フロリダマミズヨコエビの分布状況と決定要因
○山根直也、三宅洋(愛媛大学大学院)
- P1-1-12 グレーリング(*Thymallus thymallus* L.)の産卵場の予測精度に注目した生息分布モデルの比較
○福田信二(九州大学熱帯農学研究センター)、Bernard De Baets、Willem Waegeman、Jan Verwaeren(ゲント大学)、Ans Mouton(Research Institute for Nature and Forest (INBO))
- P1-1-13 ブルーギルの繁殖コロニーの特徴とダム湖の水位操作を利用した効果的な防除手法

○大杉奉功、澁谷慎一((財)ダム水源地環境整備センター)、沖津二郎、樋口貴哉(応用地質(株))、中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)、土岐範彦、本多吉美(国土交通省東北地方整備局三春ダム管理所)

- P1-1-14 ため池の魚類群集に対する外来魚オオクチバスの影響評価手法の検討
○角田裕志(岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター)、満尾世志人(龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科)
- P1-1-15 外来種の侵入を抑制する特殊土壌を用いたセイタカアワダチソウなどの発芽実験
○田中淳、中本真平、杉浦弘毅、田中賢治、朝日伸彦(国土防災技術(株))、井野友彰((株)ナビコグリーン)

希少な生物の保全

- P1-1-16 日本海側南限(山陰地方)ハマナス個体群の分布と生育立地
○石崎龍二(鳥取大学大学院農学研究科)、日置佳之(鳥取大学農学部)
- P1-1-17 瀬戸内海干潟におけるコアモモ場がつくりだす環境構造とマクロベントス群集構造の関係解析
○中川詠理(愛媛大学大学院理工学研究科)、大森浩二(愛媛大学沿岸環境科学研究センター)
- P1-1-18 ハマボウフウの種子発芽—個体群の回復を目的として—
○多田純也(北海道大学大学院農学院)、近藤哲也(北海道大学大学院農学研究科)、藤彰典(北海道大学大学院農学院)
- P1-1-19 丘陵地の大学農場に保全した低茎草原の植生管理とポリーネーター
○野呂恵子(明治大学農学部)、鈴木孝彦(戸田建設(株))、三谷清(多摩木材センター協同組合)、倉本宣(明治大学農学部)
- P1-1-20 丘陵地の大学農場建設における低茎草原の保全と再生
○倉本宣、野呂恵子(明治大学農学部)、鈴木孝彦(戸田建設(株)技術研究所)、三谷清(多摩木材センター協同組合)
- P1-1-21 カワラノギクの復元個体群の野生個体群との類似点
○倉本宣、岡田久子、芦澤和也(明治大学農学部)、三谷清(多摩木材センター協同組合)

- P1-1-22 天然記念物ヤチカンバ群落地の管理法・監視法構築の取り組み
○藤村善安(産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門)
- P1-1-23 福井県池河内におけるハンノキ林除去による希少な水生植物再生の取り組み
○八木健爾、村田薬師((株)環境アセスメントセンター敦賀事務所)、松村俊幸(福井県安全環境部自然環境課(現 福井県海浜自然センター))、関岡裕明((株)環境アセスメントセンター敦賀事務所)
- P1-1-24 福井県池ヶ原湿原における低層湿原の植生再生の取り組み
○関岡裕明、八木健爾、金倉奈美((株)環境アセスメントセンター敦賀事務所)、平山亜希子(福井県自然保護センター(現 福井県安全環境部自然環境課))、松村俊幸(福井県自然保護センター(現 福井県海浜自然センター))

- P1-1-25 鳥取県に分布する湿原植物・植生の現状とその評価
○本池祐貴(鳥取大学大学院農学研究所)、日置佳之(鳥取大学農学部)
- P1-1-26 霞ヶ浦アサザ植栽地での消波施設建設による堆積環境変化に関する検討
○加茂川優紀、山室真澄(東京大学大学院新領域創成科学研究科)
- P1-1-27 北海道北部に生息するイトウの成長と食性
○鈴木享子(東大大海研)、川原満(猿払イトウの会)、藤本信治(オホーツク活魚)、清水泰(猿払村漁協)、永井英俊(猿払鮭鱒漁業)、吉富友恭(学芸大環境教育)、河口洋一(徳島大工)、大石麻美(佐渡いきもの語り研究所)、児玉大輔、佐藤雄大、関島恒夫(新潟大自然)、森岡裕詞、木村伸吾、大竹二雄(東大大海研)
- P1-1-28 通潤用下水井手水路の改修におけるアブラボテ生息環境の保全・向上
○西山穂((株)西日本科学技術研究所)、鬼倉徳雄(九州大学)、中島淳(福岡県保険環境研究所)、西慶喜(山都町教育委員会)、福留脩文((株)西日本科学技術研究所)
- P1-1-29 ダム事業に伴うカジカ中卵型の移植実験計画(案)について
○宮島泰志、安形仁宏、坂本健太郎((株)建設技術研究所九州支社)、菊永和久、橋口忍(国土交通省九州整備局長崎河川国道事務所)、村岡敬子、山下慎吾((独)土木研究所)
- P1-1-30 豊岡盆地コウノトリ営巣地における自活個体および給餌依存個体の水田餌生物量の比較
○佐志志朗、大迫義人、江崎保男(兵庫県立大学自然環境科学研究科)

生物多様性の保全

- P1-1-31 大雪山国立公園内道路敷地における法面緑化工用種子採取
○麻生雪絵、堤公宏(榊ズコーシャ環境評価センター)、林正史、菅原明(北海道十勝総合振興局帯広建設管理部)
- P1-1-32 山地溪畔林の鳥類相—尾根筋および針葉樹人工林の鳥類相との比較—
○平田令子、伊藤哲(宮崎大・農)、平石将太郎(宮崎大・院農)、三枝直樹(サントリーホールディングス)
- P1-1-33 群集の入れ子構造に着目した都市緑地の鳥類生息環境の分析
○大山ゆりあ、相澤章仁、小林達明(千葉大学大学院園芸学研究科)
- P1-1-34 河川生物に対する溪畔林の餌資源供給機能—天然林と人工林とでの比較—
○竹林佑記、井上幹生、三宅洋(愛媛大学大学院理工学研究科)
- P1-1-35 多摩川における約20年間の群落複合の分布パターン変遷
○篠原光礎(東京農工大学(現 アジア航測(株))),吉川正人、星野義延(東京農工大学)
- P1-1-36 異なる河道におけるリーチ内の底生無脊椎動物の多様性の構成
○大平充(東京農工大学大学院連合農学研究科)、千賀裕太郎(東京農工大学農学部)
- P1-1-37 四国北西部における河川性魚類群集の種多様性およびその階層的特性
○河口拓紀、井上幹生(愛媛大学理工学研究科)
- P1-1-38 育苗箱施用殺虫剤の連続施用が水田生物群集におよぼす影響
○早坂大亮、鈴木一隆、野村拓志、西山未里、五箇公一((独)国立環境研究所)

ポスター発表 9月8日(土) 15:30~17:00 232教室

生息場と物理環境

- P1-2-1 夏期の都市域における街路樹の光合成低下とその要因について
○山岸明日翔、柳井清治(石川県立大学大学院)
- P1-2-2 放牧跡地へのブナ植林において土壌耕起の有効性か?~秋田県森吉山麓自然再生事業の事例より~
○金丸孔明、佐藤孝、蒔田明史(秋田県立大学)
- P1-2-3 森林土壌を活用した緑化
○河野修一、江崎次夫(愛媛大学農学部)、田中健一(日本植生(株))、全権雨(江原大学校山林環境科学大学)
- P1-2-4 先駆種、遷移中・後期種の混植による広葉樹林再生の試み
○鳥田知帆、長島啓子、田中和博(京府大院)、高田研一(森林再生支援センター)、岡本宏之(宮川森林組合)
- P1-2-5 富士山南麓で2009年に採取した落葉広葉樹の種子について
○中村華子(緑化工ラボ)、篠崎隼也((株)DYM)、福永健司(東京農業大学地域環境科学部)
- P1-2-6 愛知県西ノ浜海岸林におけるマツ枯れ後の林床植生の立地環境と群落区分
○椰野遼介、吉崎真司(東京都市大学大学院環境情報学研究科)
- P1-2-7 高速道路のり面におけるヤマユリ(Lilium auratum Lindl.)の復元状況について
○上村恵也(東日本高速道路(株)東北支社道路管制センター)
- P1-2-8 琵琶湖の浚渫土中の散布体バンクの種組成と空間的分布
今西亜友美(阪大・全学教育)、小田龍聖(京大・農学)、
○今西純一(京大・地環)、夏原由博(名大・環境)、森本幸裕(京都学園大・バイオ)
- P1-2-9 明日香の棚田景観と大阪府域の農業景観における畦畔植生と人のかかわり
○岩口創志、前迫ゆり(大阪産業大学大学院人間環境学研究科)
- P1-2-10 積雪寒冷地におけるペントグラスを用いた水田畦畔の緑化
○入山義久、小林淳彦(雪印種苗(株))
- P1-2-11 農的な畦畔管理に対するカンゾウ類の反応
○七海絵里香(日本大学大学院生物環境科学研究科)、大泉宏明(高知県農業振興部)、大澤啓志(日本大学生物資源科学部)
- P1-2-12 湖沼型サクラマス魚道の利用状況について

- 美馬純一、松井一晃、元木達也 ((株)環境アセスメントセンター)、青池仁(元国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所)、福島将史(国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所)
- P1-2-13 オオサンショウウオの生息に配慮した農業用水路の整備に関する研究
○吉田博一(鳥取大学大学院農学研究科)、日置佳之(鳥取大学農学部)
- P1-2-14 荒瀬ダム撤去事業に向けた球磨川河口の物理環境及び生息生物の現状把握
○立道大伸(九州大学工学研究院)、小山彰彦(九州大学農学研究院)、乾隆帝(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)、鬼倉徳雄(九州大学農学研究院)、島谷幸宏(九州大学工学研究院)
- P1-2-15 固定床河川的环境改善を目的とした土砂の堆積を促す水制配置の検討
○久加朋子(京都大学大学院工学研究科)、藤田正治、竹林洋史(京都大学防災研究所)、三橋弘宗(兵庫県立人と自然の博物館)
- P1-2-16 福岡県室見川におけるシロウオの産卵環境と住民参加型の保全
○伊豫岡宏樹、山崎惟義、渡辺亮一(福岡大学工学部)、皆川朋子(熊本大学工学部)
- P1-2-17 宍道湖における沈水植物相復元手法の検討
○小室隆(東京大学大学院)、Sergey K. Krivonogov (Institute of Geology and Mineralogy of SB RAS)、山室真澄(東京大学大学院)
- P1-2-18 淀川におけるヨシ原の衰退と再生
○山野上祐司(大阪工業大学大学院工学研究科)、綾史郎(大阪工業大学工学部都市デザイン工学科)、東良慶(京都大学防災研究所流域災害研究センター)
- P1-2-19 遠賀川中島再生湿地は氾濫原生生態系として機能するか - 淡水魚類の出現パターンに着目して -
○林浩介(九州大学大学院)、中島淳(福岡県保険環境研究所)、川本朋慶、岡本佳之、小山彰彦、鬼倉徳雄(九州大学大学院)
- P1-2-20 再生氾濫原における二枚貝の生息環境に関する研究
○劉佳、林博徳、稲熊祐介、島谷幸宏(九州大学大学院工学部)
- P1-2-21 山地溪流山附川における多自然川づくりの評価 - 洪水によるハビタットと魚類生息状況の変化について
○劉義濤(九州大学大学院工学部)、島谷幸宏、山下奉海(九州大学大学院工学研究院)、佐藤辰郎、池松伸也(九州大学大学院工学部)
- P1-2-22 河原上の樹林化が進行した河川の特徴と進行のメカニズム
○原田大輔、知花武佳(東京大学大学院工学系研究科)
- P1-2-23 河床掘削工事が河川性動物群集に及ぼす影響の把握
○今田慎太郎、三宅洋、潮見礼也、井上幹生(愛媛大学大学院)
- P1-2-24 河道植生域による細砂堆積の影響を考慮した粒状有機物の捕捉機構
○尾花まき子(東京大学大学院)、内田孝洋、辻本哲郎(名古屋大学大学院)
- P1-2-25 出水後の河床付着藻類の回復とマイクロハビタットの関係
○岡田久子(明治大学研究知財戦略機構)、倉本宣(明治大学農学部)、知花武佳(東京大学工学部)
- P1-2-26 フラッシュ放流と土砂還元による付着藻類、大型糸状緑藻類への付着形態に着目した影響調査
○富田邦裕、本間隆満、井内拓馬((株)建設環境研究所)、福嶋悟(藻類研究所分析センター)、佐藤郁太郎(国土交通省関東地方整備局)、蘭勝司(国土交通省関東地方整備局相模川水系広域ダム管理事務所)
- P1-2-27 覆砂実験による土砂堆積が底生動物に与える影響について
○加藤康充((独)土木研究所自然共生研究センター)、(株)建設環境研究所、富田邦裕((株)建設環境研究所)、相田達也(国土交通省中部地方整備局矢作ダム管理所)、萱場祐一((独)土木研究所自然共生研究センター)
- P1-2-28 アユの産卵床に必要な河床地形条件に関する研究
○村井彰弘、竹門康弘、角哲也(京都大学大学院工学研究科)
- P1-2-29 ヨシノボリの産卵床となる載り石環境の成立条件に関する研究
○伊藤悠、知花武佳(東京大学工学系研究科)
- P1-2-30 サケ産卵床の空間分布に地下水が及ぼす影響
○森崎夏輝、根岸淳二郎(北海道大学大学院環境科学院)、有賀望(札幌市豊平川さけ科学館)
- P1-2-31 石狩川上流のサケの遡上と自然産卵の回復 ~ 現在と過去の産卵場の比較 ~
○有賀誠(明治コンサルタント(株))、伊藤洋満(水産総合研究センター)、田中康泰(北海道開発局旭川建設部)、津田裕一(近畿大学)、有賀望(札幌市豊平川さけ科学館)、宮下和士(北海道大学)
- P1-2-32 地質・地形に着目した五ヶ瀬川及び北川における河川構造と生物相の関係 - 感潮域カニ類に着目して -
○皆川朋子(熊本大学)、伊豫岡宏樹、渡辺亮一(福岡大学)
- P1-2-33 中小河川における川づくりの現状と課題
○大石哲也、原田守啓、高岡広樹、萱場祐一((独)土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター)
- P1-2-34 滋賀県内河川における魚類・底生動物の現存量、種組成と環境条件の関連性の検討
○大久保卓也、井上栄壮、永田貴丸、佐藤祐一 C(滋賀県琵琶湖環境科学研究センター)、石崎大介、亀甲武志(滋賀県水産試験場)
- P1-2-35 中山間部の水田におけるドジョウの生活史
○田和康太、中西康介、金井亮介、村上大介、沢田裕一(滋賀県立大学・環境科学)
- P1-2-36 渡良瀬遊水地における湿地環境変化に関する考察
○知花武佳、坪井亜美(東京大学大学院工学系研究科)

生物被害の防除

- P1-2-37 環状剥皮によるヤナギ林伐採後の萌芽再生抑制効果
○田屋祐樹、増本みどり、赤松史一、中西哲、三輪準二、萱場祐一((独)土木研究所)
- P1-2-38 タケ類テングス病の発症林分の2年間の変化 - 滋賀県八幡山の事例 -
○鈴木重雄(立正大学)
- P1-2-39 水田畦畔の植生管理の違いが、斑点米カメムシおよび土着天敵の個体数に及ぼす影響

○稲垣栄洋、市原実、松野和夫、済木千恵子（静岡県農林技術研究所）、山口翔、水元駿輔、山下雅幸、澤田均（静岡大学農学部）

P1-2-40 親水環境改善に資するホソバミズヒキモ（Potamogeton octandrus Poir.）の繁茂抑制について

○田崎冬記、木口満（(株)北開水工コンサルタント）

P1-2-41 シカ不嗜好性植物を利用した林道切土法面の吹付緑化

○田代慶彦（鹿児島県森林技術総合センター）、下園寿秋（鹿児島県森林経営課）、中村克之（鹿児島県北薩地域振興局）

P1-2-42 エゾシカ対策の有効性の検証 —農業被害に着目して—

○櫻井哲史（北海道大学農学院）、森本敦子、三島啓雄（北海道大学農学研究科）、宇野裕之（北海道立総合研究機構環境科学研究センター）

ポスター発表 9月9日(日) 11:00~12:30 231教室

モデリング/計画/調査手法

P2-1-1 生態学的視点および景観を考慮した都市公園の設計プロセスに関する研究

○平田裕之、伊藤啓太郎（九州工業大学大学院工学府）、割石徹（北九州市役所）

P2-1-2 多面的機能評価に基づく森林ゾーニング手法の提案

○岡和樹、三幣亮（徳島大学大学院先端技術科学教育部）、鎌田磨人（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部）

P2-1-3 鳥取県青島を事例としたサクラの植栽管理計画の立案

○井上雄太、日置佳之（鳥取大学農学部）

P2-1-4 北陸地方2河川における河畔林組成と形成要因

○古高太規（石川県立大学大学院）、柳井清治（石川県立大学）

P2-1-5 淡路島における竹林及び管理主体の分布を基にした持続的な竹林管理の仕組み

○山本ジェイミー、藤原道郎、大藪崇司、澤田佳宏、山本聡（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科（専門職）/淡路景観園芸学校）

P2-1-6 鳥取県若杉山における地形指数を用いた草地の森林化リスク

○横田潤一郎（公益財団法人リバーフロント研究所）、日置佳之（鳥取大学農学部）

P2-1-7 大山隠岐国立公園大山蒜山地域におけるスギ人工林の林業的価値の評価および今後の管理方針の検討

○千布拓生（鳥取大学大学院連合農学研究科）、妙中伸彰（大阪府立大学生命環境科学研究科）、三枝直樹（サントリーホールディングス（株））、日置佳之（鳥取大学農学部）

P2-1-8 網状流路河川・重信川における魚類群集の現状—13年前との比較—

○富士見佳門、井上幹生、内田有紀（愛媛大学理学部）

P2-1-9 河口干潟における底質環境変動に伴う底生生物群集予測モデルの提案

○大谷壮介（大阪府立大学工業高等専門学校）、倉田健悟（島根大学汽水域研究センター）、山中亮一、上月康則（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部）

P2-1-10 八幡湿原自然再生事業地における UAV 空撮画像解析による開放水面および草本群落の区分法の検討

○山場淳史（広島県総技研・林技C）、太田哲平、天野嘉春、橘詰匠（早稲田大・理工）、鈴木太郎（東京海洋大）、土屋武司、鈴木真二（東京大・工）、佐久間智子（中外テクノス）

P2-1-11 トンボ類を指標種とした都市におけるエコロジカル・ネッ

トワーク構築手法に関する研究

○深町健太郎、伊藤啓太郎、石松一仁（九州工業大学大学院工学府）

P2-1-12 satoyama index を用いた里地里山マッピング

○村上拓彦（新潟大学大学院自然科学研究科）、中谷智成（新潟大学農学部）、望月翔太（新潟大学大学院自然科学研究科）

P2-1-13 植生図作成のための既存データ等の活用検討

○浅井樹、染矢貴、廣永茂雄、成ヶ沢久仁子、館野真澄、塚本吉雄（アジア航測（株））

P2-1-14 生物多様性を考慮した水源林におけるゾーニング

○木崎巧治（宮崎大院農）、伊藤哲、平田令子（宮崎大農）、三枝直樹（サントリーホールディングス（株））

P2-1-15 Modeling of biomass of submerged macrophytes in shallow lakes

○F. M Jamil Uddin (Dept. Env. Sci. & Technol., Saitama University)、Takashi Asaeda (Institute for Env. Sci. & Technol., Saitama University)

P2-1-16 Influence of flood disturbance on aquatic habitat structure in the Kizu River

○Mikyong Choi (Graduate school of Urban Management, Kyoto University)、Yasuhiro Takemon, Tetsuya Sumi (Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University)

P2-1-17 ニホンジカ食物資源量評価のための林床植物地上部現存量の推定法

○古澤仁美、佐野哲也（森林総合研究所）

P2-1-18 航空機レーザー測量を用いた異なるスケールアプローチでのスギ・ヒノキ林材積の推定

○根本光、加藤頭、小林達郎（千葉大学大学院園芸学研究科）

P2-1-19 施設計画のための生物多様性簡易評価ツールの開発

○内池智広、渡邊千佳子（大成建設（株）環境本部）、中村忠昌（(株)生態計画研究所）、須田真一（東京大学大学院農学生命科学研究科）、日置佳之（鳥取大学農学部）

P2-1-20 3次元レーザスキャナを用いた法面の微地形形状と侵入植物の計測

○中村彰宏（大阪府大生命環境）、田中淳（国土防災技術（株））、井上裕介（(株)ケイエフ）

P2-1-21 現存植生図を基にした淡路島における竹林の分布と管理

○藤原道郎（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科（専門職）/淡路景観園芸学校）、伊藤休一（(株)緑生研究所）

- P2-1-22 地上レーザーを用いた外来抽水植物の地図作成技術
○林敏樹 (千葉大学)、加藤頤 (千葉大学園芸学研究所)
- P2-1-23 湖内の島における哺乳類相と植生の関係
○上木麻衣、日置佳之 (鳥取大学農学部)
- P2-1-24 小型クロロフィル蛍光測定器を用いた水ストレスによる樹勢衰退の客観的診断の可能性
○国正あゆ ((有) 中島樹木クリニック)、大藪崇司、澤田佳宏、山本聡、藤原道郎 (兵庫県立大学大学院)
- P2-1-25 底生動物データを用いた愛媛県 50 河川の評価
○潮見礼也、三宅洋 (愛媛大学大学院)
- P2-1-26 事業に伴う河川環境調査における生物の遺伝情報活用に関する方向性～生物の遺伝情報を河川事業の影響評価へ活用する計画について～
○安形仁宏、瀬口雄一 ((株) 建設技術研究所)、太田宗宏 ((株) 建設環境研究所)、増本育子 (中電技術コンサルタント(株))、村岡敬子 ((独) 土木研究所)
- P2-1-27 水資源の乏しい讃岐平野における河川の浮遊藻類の分布：効率的な水利用と河川の断続性に注目して
○福田竜也 (愛媛大学大学院連合農学研究科)、山田佳裕 (香川大学農学部)、野崎健太郎 (椋山女学園大学教育学部)
- P2-1-28 ダム上下流の水温変化の波形解析
○中西哲、赤松史一、萱場雄一、(独) 土木研究所、小林草平 (京都大学)
- P2-1-29 珪藻と水生昆虫を用いた河川環境のマイクロハビタット評価
○芝崎美世子 (大阪市立大学)、大塚泰介 (琵琶湖博物館)、三田村宗樹 (大阪市立大学)
- P2-1-30 生物生息場評価ソフトウェア PHABSIM の日本語化
○関根雅彦 (山口大学大学院理工学研究科)
- P2-1-31 分布を広げるケモノたち：日本における大型哺乳類の分布拡大予測
○斎藤昌幸 (東京大学大学院総合文化研究科)、百瀬浩 (中央農業総合研究センター)、松田裕之 (横浜国立大学大学院環境情報研究院)
- P2-1-32 感光性の低いキリンソウの選抜
○柿下彩夏、我妻尚広、岡本吉弘 (酪農学園大学大学院酪農学研究科)、入山義久、鈴木玲 (雪印種苗 (株))
- P2-1-33 タイサンボク (*Magnolia grandiflora* L.) の移植作業に伴う樹液流動について
○竹内真一、森田康平、岸本宗也、篠崎圭太郎 (南九州大学環境園芸学部)
- P2-1-34 大型重量計を用いた単木樹木の蒸散量の計測法とその精度確認
○浅輪貴史 (東京工業大学)、梅干野晃 (放送大学)、清水克哉 (トヨタ自動車バイオ・緑化研究所)、久保田光政 (ダイトウテクノグリーン)
- P2-1-35 強度剪定後の緑化樹木の回復過程の研究
岡谷大亮○梶井千永、石井弘明 (神戸大学農学部資源生命科学科森林資源学研究室)
- P2-1-36 ジブチ共和国で採取した木本植物の種子発芽率と初期生長
○橘隆一、小澤信彦 (東京農業大学地域環境科学部)、大野愛美 (青年海外協力隊)、福永健司、真田篤志、鈴木伸治、高橋悟 (東京農業大学地域環境科学部)
- P2-1-37 武蔵丘陵森林公園におけるヤマユリ (*Lilium auratum* Lindley) 幼令個体の個体群動態+L168
○永留真雄 (千葉大学大学院園芸学研究所)、根本淳 ((株) プラトー研究所)、寺田昌代 (前：(有) アクタス・プランニング)、小林達明 (千葉大学大学院園芸学研究所)
- P2-1-38 道東と道南に自生するゼンテイカの葉緑体ゲノムの遺伝変異
○石田光、我妻尚広、岡本吉弘 (酪農学園大学大学院酪農学研究科)
- P2-1-39 暖温帯域での高齢化した里山構成種 7 種の萌芽能力
○山瀬敬太郎 (兵庫県立農林水産技術総合センター)
- P2-1-40 中空構造栽培槽の 3 次元移動による栽培植物の光環境への影響
○内山知二 ((地独) 大阪環農水研)、山崎敬亮、長崎裕司 ((独) 農研機構近中四農研セ)、佐野修司 ((地独) 大阪環農水研)、西本登司 (奈良農総セ)、遠藤常嘉、工藤渚 (鳥取大)、松山眞三 (大日本プラスチック (株))、隅谷智宏 ((株) ヴェイル)
- P2-1-41 里山生態系における動物を介した水域-陸域間の物質移動～安定同位体による造網性クモの食性分析～
○橋本啓史 (名城大学農学部)
- P2-1-42 倒木が溪流性サケ科魚類アマゴの生息環境に及ぼす影響—一定住性を用いた評価—
○末國仙理、井上幹生 (愛媛大学大学院理工学研究科)
- P2-1-43 バイブ魚道内のオイカワの遊泳行動に関する室内試験
○赤司信義、石川誠、太田有生夫、巖舒雯 (西日本工業大学)、福田直三、若宮慎二 (復建調査設計 (株))
- P2-1-44 AE 法を用いた水ストレス条件化で発生したセンリョウ起源弾性波の検出に関する研究
○上野由樹 (新潟大学大学院)、鈴木哲也 (新潟大学自然科学系(農学部))
- P2-1-45 濁水の暴露における濃度とタイミングがアユ卵の生残に及ぼす影響
○小野田幸生、森照貴 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)、佐川志郎 (兵庫県立大学自然環境科学研究所)、萱場祐一 ((独) 土木研究所自然共生研究センター)
- P2-1-46 淡水産テナガエビ類のマイクロ生息場選好性
○齋藤稔 (徳島大学大学院)、浜野龍夫 (徳島大学大学院・ソシオアーツアンドサイエンス研究部)、中田和義 (岡山大学大学院)
- P2-1-47 イシガイ目二枚貝類の沈降特性と生息環境に関する研究
○稲熊祐介 (九州大学大学院工学府)、林博徳、島谷幸宏 (九州大学工学部環境都市部門)、中島淳 (福岡県保険環境研究所)
- P2-1-48 河口干潟における有機物無機化に対するスナガニ類の影響
○濃野大地、佐々木晶子、中坪孝之 (広島大学生物圏科学研究科)
- P2-1-49 盤洲干潟のスナガニ類がハマツナ (*Suaeda maritima*) の群落形成に及ぼす影響
○湯谷賢太郎 (木更津高専・環境都市工学科)

生物の基本性質や生理

P2-1-50 湘南海岸平塚地区における養浜への海浜植生の定着要因
 ○惣方智帆(東京多摩青果(株))、岡浩平(広島工業大学環境部)、吉崎真司(東京都市大学環境情報学部)

○Takaya Higuchi (OYO Corporation)、Takashi Asaede (Saitama University)、Katsuki Nakai (Lake Biwa Museum, Shiga Prefecture)、Tomonori Osugi (Water Resource Environment Technology Center)

P2-1-51 Ecological function of willow communities as spawning and nursery habitats for native fish developed in the seasonally submerged zone of a reservoir Kazuhiro Azami、

ポスター発表 9月9日(日) 11:00~12:30 232教室

水質保全の理論と技術

P2-2-1 農林地流域内の森林が河川水中の硝酸態窒素濃度に及ぼす影響—十勝川水系における調査事例—
 ○山崎由理、宗岡寿美、辻修、木村賢人(帯広畜産大学)、岡澤宏(東京農業大学地域環境科学部)

P2-2-2 ヨシを用いた植生浮島による美瑛町水沢湖の水質浄化
 ○辻修、大手裕人、島田英理子(帯広畜産大学)、大西能正(美瑛町役場)

P2-2-3 河川伏流水中での窒素動態
 ○下田研人、山室真澄(東京大学大学院新領域創成科学研究科)

P2-2-4 ダム試験湛水前から運用初期における河川内有機物の質的变化
 ○坂東伸哉(徳島大・先端技術研究部)、河口洋一(徳島大・ソシオテクノサイエンス研究部)、野口剛志(佐賀大・工)、濱岡秀樹((独)水産総合研究センター)、手塚公裕(佐賀大・工)、佐藤雄大、児玉大輔、関島恒夫(新潟大・自然科学研究科)、大串浩一郎(佐賀大・工)

緑地再生の理論と技術

P2-2-5 コジキイチゴ(*Rubus sumatranus* Miq.) 種子への発芽促進処理が発芽に及ぼす影響
 ○藤田祐規(大日本コンサルタント(株))、小澤信彦、岸野公亮、橘隆一、福永健司(東京農業大学地域環境科学部)

P2-2-6 生分解性不織布ロングポットを使用した緑化樹苗木の成長
 ○池本省吾(鳥取県農林総合研究所林業試験場)、竹本勘二郎((有)竹本園)、木村勝典((地独)鳥取県産業技術センター機械素材研究所)

P2-2-7 オオバヤシャブシ(*Alnus sieboldiana* Matsum.) が優占する緑化法面における散布種子と定着植物との関係
 ○小向真人(神奈川県水源の森林部)、福永健司、橘隆一(東京農業大学地域環境科学部)

P2-2-8 有機質系土壌改良材の混合率とトビムシ類の侵入との関係
 ○山瀬有佳(東京農業大学地域環境科学部)、麻生理加(京農業大学大学院農学研究科)、河野安里、橘隆一、福永健司(東京農業大学地域環境科学部)

リサイクル技術

P2-2-9 微生物を活用した土壌改良材
 ○江崎次夫、河野修一(愛媛大学農学部)、稲本亮平(愛媛県南予地方局)、全権雨(江原大学校山林環境科学大学)

P2-2-10 膨軟化木材チップの植生基盤材料としての適性
 福永健司、
 ○本橋和也、橘隆一(東京農業大学地域環境科学部)、池田昌義、杵掛武(日本基礎技術(株))

P2-2-11 竹膨軟化繊維混入吹付植生基盤の強度試験
 ○杵掛武、奥野倫太郎、池田昌義(日本基礎技術(株))、高橋輝昌、大豆生田萌(千葉大学大学院園芸学研究科)

P2-2-12 エチゼンクラゲ類(*Nemopilema* spp.) を活用した海岸防災林の造成
 ○河野修一、江崎次夫(愛媛大学農学部)、柳原敦(山形大学農学部)、稲本亮平(愛媛県南予地方局)、DAMDINSUREN, Enkhjargal、全権雨(江原大学校山林環境科学大学)

P2-2-13 エチゼンクラゲ類を活用した史跡地の緑化
 ○河野修一、江崎次夫(愛媛大学農学部)、稲本亮平(愛媛県南予地方局)、全権雨(江原大学校山林環境科学大学)

P2-2-14 エチゼンクラゲ類の施用が雑草の発生に及ぼす影響
 ○全権雨、DAMDINSUREN, Enkhjargal(江原大学校山林環境科学大学)、稲本亮平(愛媛県南予地方局)、河野修一、川崎哲郎、江崎次夫(愛媛大学農学部)

P2-2-15 エチゼンクラゲ類を活用した海岸クロマツ林の造成
 ○全権雨、Enkhjargal Damdinsuren(江原大学校山林環境科学大学)、稲本亮平(愛媛県南予地方局)、河野修一、江崎次夫(愛媛大学農学部)

P2-2-16 Effect of Jellyfish fertilizer on Seedling Growth
 KW Chun, ○Enkhee Damdin, YR Kim (Kangwon National University)、Tsugio Ezaki (Ehime University)

災害と生態系

P2-2-17 東日本大震災が沿岸地域の自然環境に及ぼした影響調査の概要 -東北地方太平洋沿岸地域自然環境調査等業務の実施について-
 ○塚本吉雄、市橋理、壱岐信二、染矢貴、磯田真紀、寺澤弘陽(アジア航測(株))、佐藤直人、馬淵亮(環境省自然環境局生物多様性センター)

P2-2-18 日本近海赤色立体地図
 ○浅井樹、壱岐信二、千葉達郎、平松考晋(アジア航測(株))

P2-2-19 福島第一原発事故被災地の里山における放射能動態に関する研究1-空間線量と放射能の空間分布
 ○山本理恵、木村絵里、飯塚和裕、小林達明(千葉大学院園芸学研究科)、鈴木弘行(千葉大学RI実験施設)、近藤昭彦(千葉大学環境RS研究セ)

P2-2-20 原発災害被災地における林縁部法面の放射性物質移行・浸食防止試験
 ○木村絵里、飯塚和弘、山本理恵、小林達明(千葉大園芸)、鈴木弘行(千葉大学RI実験施設)、星澤保弘、小林守敏彦、関崎益夫、谷口伸二(日本植生(株))

P2-2-21 千葉県九十九里における海岸林と家屋の被害から見た砂堤と海岸林の津波防御効果

○小林達明、長谷川いづみ、野原麻由実、加藤顕、本條毅 (千葉大園芸)、岡田悠、山下俊男 (千葉県北部林業事務所)

P2-2-22 福島の森林における放射性物質動態の調査研究—東京農業大学東日本支援プロジェクト—

○橋隆一、上原巖、中村幸人、江口文陽、大林宏也、瀬山智子 (東京農業大学地域環境科学部)

P2-2-23 多様な主体による地域間連携を通じた津波被災地での森林資源の活用・復興支援事例

○中村華子 (緑化工ラボ/特定非営利活動法人山の自然学クラブ)

P2-2-24 三宅島雄山の火山ガス高濃度地域における山腹緑化試験

○小川泰浩、岡部宏秋 (森林総合研究所)、黒川潮 (森林総合研究所関西支所)

P2-2-25 雲仙普賢岳南東斜面の土石流発生域に見られる湧水について

○小川泰浩 (森林総合研究所)

P2-2-26 リモートセンシングによる火山性ガスの計測と植生回復の実態把握—三宅村規制区域を対象として—

○原田一平、原慶太郎 (東京情報大学環境情報学科)、久世宏明 (千葉大学環境リモートセンシング研究センター)

P2-2-27 モンゴル国の北方林における大規模火災後の更新特性

○中桐恵利華、音田高志、廣部宗、坂本圭児、Uyanga Ariya (岡山大学大学院環境学研究所)、Baatarbileg NACHIN (National University of Mongolia)、吉川賢 (岡山大学大学院環境学研究所)

P2-2-28 航空実播工による山火事跡地の森林再生

○田中健一、石橋孝仁 (日本植生(株))、河野修一、江崎次夫 (愛媛大学農学部)、全権雨 (江原大学校山林環境科学大学)

P2-2-29 愛媛県今治市笠松山の森林再生

○田中健一、石橋孝仁 (日本植生(株))、河野修一、江崎次夫 (愛媛大学農学部)、全権雨 (江原大学校山林環境科学大学)

P2-2-30 林床可燃物の空間連続性による林野火災リスク評価

○森本淳子 (北大院農学研究院)、濱本菜央、小南遼 (北大院農学院)、三島哲雄 (北大院農学研究院)

環境教育と情報

P2-2-31 淡路島におけるイノシシと人の関わりをもとにした世代間交流

○久野航、藤原道郎、大藪崇司、澤田佳宏、山本聡 (兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科)

P2-2-32 都市緑地における利用者の休憩場所に対する利用心理と満足度・印象評価に関する研究

○大塚芳嵩、岩崎寛 (千葉大学大学院園芸学研究所)

P2-2-33 都市域における緑地とその利用行動が居住者の健康関連

QOL に与える影響

○那須守 (清水建設(株)技術研究所)、岩崎寛 (千葉大学)、高岡由紀子 (日本環境協会)、金侑映、石田都 (千葉大学)

P2-2-34 緑景観が人間のストレス緩和に及ぼす影響の把握手法

○山本聡 (兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科/県立淡路景観園芸学校)

P2-2-35 千葉県の海岸林及び海岸における癒し効果の検証

○白井珠美、岩崎寛 (千葉大学大学院園芸学研究所)

P2-2-36 生物多様性主流化ツールとしてのタウンミーティング

○岩本敏明、大西舞 (徳島大学大学院先端技術科学教育部)、鎌田磨人 (徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)、野田奏栄 ((公益社団)大阪自然環境保全協会)

P2-2-37 都市勤務者の都市緑地に対する意識調査および都市域における緑地が保有する心理的効果

○石田都、岩崎寛 (千葉大学大学院園芸学研究所)、山村真司、吉田雄史、小川貴裕 ((株)日建設計総合研究所)

P2-2-38 生物多様性によってもたらされる里山の地域ブランドと市場価値

○小西蘭、中西弘充、伊藤吹夕、松村哲也、小西哉 (信州大学SVBL)

P2-2-39 里山公園ボランティアの意識変化

○吉田朗子、倉本宣 (明治大学農学部)、三谷清 (多摩木材センター協同組合)

P2-2-40 農学部学生の生物多様性意識

○長谷川忍 (明治大学大学院農学研究所)、倉本宣 (明治大学農学部)

P2-2-41 公共土木事業は自然環境の保全を重視しているのか～優良工事審査制度からの検討～

○岡本真弥、九里徳泰、高橋剛一郎 (富山県立大学工学部環境工学科)

P2-2-42 都市河川の自然再生における情報共有～地域コミュニティによるソーシャルメディアの活用

○新國宏樹、藤井佑香、吉富友恭 (東京学芸大学)

P2-2-43 沖縄河川のワイズユースに向けて

○竹村紫苑 (徳島大学大学院先端技術科学教育部)、神谷大介 (琉球大学工学部)、宮良工 ((一財)沖縄県環境科学センター)、鎌田磨人 (徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)、赤松良人 (山口大学大学院理工学研究所)

P2-2-44 河川プールの日本全国分布と管理形態

○田代優秋 (徳島県立佐那河内いきものふれあいの里)、乾隆帝 (徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)、松田春菜 (徳島県立佐那河内いきものふれあいの里)

P2-2-45 筑後川上流大山川における巨石に関する地域知を活かした河川再生

○清野聡子 (九州大学大学院工学研究院)

P2-2-46 地域知を活かした海岸環境管理—漂着ゴミ、カブトガニを例として

○清野聡子 (九州大学大学院工学研究院)

3 行事案内

3.1 第11回 北陸現地ワークショップ in 石川<テーマ:『生き物の風土～エコリージョン～』>

応用生態工学会 金沢

澤 康雄 (株)国土開発センター

応用生態工学会 金沢では、『生き物の風土～エコリージョン～』をテーマに、第11回北陸現地ワークショップ in 石川を、平成24年11月9日(金)～10日(土)の2日間で開催いたします。

1. 開催趣旨

石川県は、日本列島の中央で能登半島が日本海側に突き出した独特の地勢を有している他、邑知潟、河北潟、木場潟等の湿地が広がっている。このため、毎年冬には多くの渡り鳥が中継点、越冬地として県下に飛来しているとともに、半島地形、閉鎖性水域ならではの独特な生態系が見られる。

昨年の全国大会金沢大会では「河川流域」におけるエコリージョンを考え、それに基づく生物多様性を考慮した流域管理の考え方について議論がなされた。今年度は北陸地域を特徴づける「潟」をテーマにして、そこでの生物多様性、水質、地域の歴史と伝統についてエコリージョンの観点から議論することとする。

2. 開催概要

・ワークショップ

場 所：ITビジネスプラザ武蔵（「めいてつエムザ」内：金沢駅から徒歩10分）

日 時：平成24年11月9日（金）10:30～17:00

・交流会

場 所：近江町・海鮮市場料理『市の蔵』（近江町いちば館2F）

日 時：平成24年11月9日（金）18:00～20:00

・現地見学会

場 所：木場潟、柴山潟、片野の鴨池（ラムサール条約登録湿地）、鹿島の森（国の天然記念物）

日 時：平成24年11月10日（土）9:00～16:30

・主 催：応用生態工学会 金沢

・協賛及び後援（予定）：国交省北陸地方整備局，農林水産省北陸農政局，環境省中部地方環境事務所，石川県，金沢市，社団法人北陸建設弘済会，北陸技術士懇談会，石川県建設コンサルタント協会，石川県治水協会

3. ワークショップ プログラム (講演, 研究報告, 事例報告の時間帯は質疑5分程度を含む)

- 10:00～ 受付開始
- 10:30～10:40 開会の挨拶 実行委員長 玉井信行 (東京大学名誉教授)
- 10:40～11:20 基調講演 北陸のエコリージョン
チェン シュ フォン
 Chen Siew Fong ((株)地域環境計画生物多様性推進事業部)
- 11:20～12:00 講演 世界農業遺産「能登の里山里海」と生態系管理
なかむら こうじ
 中村 浩二 (金沢大学教授・環日本海域環境研究センター長)
- 12:00～13:00 休 憩 -----
- 12:00～13:00 ポスターセッション
- 13:00～13:30 研究報告1 石川の潟と水生植物相の変遷
ながさか まさお
 永坂 正夫 (金沢星稜大学人間科学部教授)
- 13:30～14:00 研究報告2 森林と潟 ～陸ガニ類を介した物質循環～
やない せいじ
 柳井 清治 (石川県立大学生物資源環境学部教授)
- 14:00～14:20 事例報告1 石川の淡水魚
さの おさむ
 佐野 修 (石川県自然史センター理事)
- 14:20～14:40 事例報告2 日本のトキ復活作戦といしかわ動物園の取り組み
たけだ しんいち
 竹田 伸一 (いしかわ動物園飼育展示課主査・種保全グループ長)
- 14:40～15:00 事例報告3 木場潟におけるヨシによる水質浄化の取り組み
つちだ ひとし
 土田 準 (こまつ環境パートナーシップ・木場潟再生プロジェクトリーダー)
- 15:00～15:20 事例報告4 ラムサール登録湿地・片野鴨池に見る, 人と自然の共存
おかもと ひろこ
 岡本 裕子 ((公財)日本野鳥の会 加賀市鴨池観察館担当 チーフレンジャー)
- 15:20～15:30 休 憩 -----
- 15:30～16:50 総合討論 北陸のエコリージョンを考える.
 コーディネーター 玉井信行 (東京大学名誉教授)
 パネリスト (予定)
 Chen Siew Fong ((株)地域環境計画生物多様性推進事業部)
 中村 浩二 (金沢大学教授・環日本海域環境研究センター長)
 永坂 正夫 (金沢星稜大学人間科学部教授)
 柳井 清治 (石川県立大学生物資源環境学部教授)
- 16:50～17:00 総 括 実行委員長 玉井信行
- 17:00 閉会の挨拶 中村副実行委員長

4. 現地見学会

加賀地域の潟を中心として、前日の講演内容他の現地を見学します。

[見学ルート]

金沢駅 (9:00) →アトリオ (経由) →石川県立大学駐車場 (経由) →木場潟→柴山潟→ (昼食) →
片野の鴨池→鹿島の森→小松空港 (経由) →石川県立大学駐車場 (経由) →金沢駅 (16:30)

※, 金沢駅9 時集合及び16 時30分同駅解散を予定し, 帰りは小松空港に寄ります。

※, 昼食代1,000円と施設の入館料金は参加費に含まれます。

5. 参加申し込み等

1) 参加費

[ワークショップ] 正・賛助会員 2,000 円 非会員 3,000 円 学生 1,000 円

※, 会場周辺に昼食場所は多くあります。

[交流会] 一律 5,000 円

[現地見学会] 正・賛助会員 3,000 円 非会員 4,000 円 学生 2,000 円

※, 現地見学会の昼食代1,000円と施設の入館料金は参加費に含まれます

2) ワークショップ会場案内

I Tビジネスプラザ武蔵 (「めいてつエムザ」内)

〒920-0855 武蔵町14番31号

TEL : 076-224-6340 FAX : 076-224-8788

金沢駅からバス5 分, 徒歩10 分

会場地図詳細

<http://www.bp-musashi.jp/guide/about/index.html>



3) 申し込み・問い合わせ先

申し込み用紙に記入の上, FAX して下さい。同等内容のメールでも受付いたします。申し込み用紙は応用生態工学会ホームページ (<http://www.ecesj.com>) からダウンロードできます。

申込締切: 平成24 年10 月12 日 (金)

振込締切: 平成24 年10 月19 日 (金)

問い合わせ先: 応用生態工学会 金沢 (株)国土開発センター (澤 康雄, 平野 博範, 前 正人)

TEL : 076-274-8817 FAX : 076-274-8421 Email : kankyocyouusa@kokudonet.co.jp

<申し込み用紙>

ワークショップの会場と交通

会 場：ITビジネスプラザ武蔵(「めいてつエムザ」内)
 所在地：〒920-0855 武蔵町14番31号
 TEL：076-224-6340 FAX:076-224-8788
 交 通：金沢駅から徒歩10分、バスで2区間(武蔵ヶ辻下直)、タクシーで3分
 会場詳細地図：<http://www.bp-musashi.jp/guide/about/index.html>

交流会の会場と交通

会 場：近江町・海鮮市場料理「市の蔵」
 交 通：ワークショップ会場から徒歩3分、近江町いちば館2F

申し込み方法

申し込み用紙に記入の上、FAXして下さい。同等内容のメールでも受付いたします。申し込み用紙は応用生態工学ホームページ(<http://www.cccsj.com>)からダウンロードできます
 申込締切：平成24年10月12日(金)
 振込締切：平成24年10月19日(金)
 問合せ先：応用生態工学会 金沢 (株)同十開発センター(澤 康雄、平野博範、前 正人)
 TEL:076-274-8817 FAX:076-274-8421 E-mail:kankyocyouusa@kokudonet.co.jp

参加料

	正・賛助会員	非会員	学生
ワークショップ	2,000円	3,000円	1,000円
現地見学会	3,000円	4,000円	2,000円
交流会	一律5,000円(当日お支払い下さい)		

※ワークショップ会場周辺には昼食場所が多くあります。
 ※現地見学会の昼食代(1,000円)と施設の入館料は参加料に含まれます。

参加料等振込み先

銀行口座 銀行名：北國銀行金沢中央支店
 口座名義：応用生態工学会金沢(オウヨウセイタイコウガツカイカナザワ)
 口座番号：(普通) 465963

—参加申込書—

第11回 北陸現地ワークショップin石川

下記のとおり参加申し込みいたします

FAX宛先：076-274-8421

(フリガナ) 氏名	(専門分野：)		正・学生会員 No.
所属			賛助会員 No.
連絡先	自宅 所属 (いずれかに○) 〒 - 住所 TEL: FAX: E-mail:		
参加申し込み事項			参加料(いずれかにチェック)
ワークショップ	11月9日(金)10:30~17:00	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 正・賛助会員:2,000円 <input type="checkbox"/> 非 会 員:3,000円 <input type="checkbox"/> 学 生:1,000円
交流会	11月9日(金)18:00~20:00	参加・不参加	5,000円(当日お支払い下さい)
現地見学会 (昼食含む)	11月10日(土)9:00~16:30	参加・不参加	<input type="checkbox"/> 正・賛助会員:3,000円 <input type="checkbox"/> 非 会 員:4,000円 <input type="checkbox"/> 学 生:2,000円
合計参加料(交流会参加料以外)			合計 円
白し入れ事項	請求書(いずれかに○) (要・有) 現地見学会のバス乗車場所(下記のいずれかに○) 事後振込(該当の場合○) (要) <金沢駅・アトリオ・石川県立大学駐車場> その他		

4 理事会・幹事会報告

4.1 第61回理事会報告

日時：2012年6月7日(木) 13:30～16:00

場所：水道橋 貸し会議室「内海」3F

出席：近藤会長、谷田副会長、江崎理事、風間理事、河崎理事、久保田理事、熊野理事、小島理事、関根理事、玉井理事、藤原理事、松井理事、藤田幹事長

事務局：高橋事務局長

(1) 報告事項

- 1) 国際交流委員会のメール会議の結果、2012年度の海外派遣者が報告された。
- 2) 2012年度の「地域研究会の活動に対する助成申請」が2件あり、普及・連携委員会で審議した結果、2件とも助成金5万円を支給することを報告した。
 - ① 応用生態工学会金沢 北陸におけるエコリージョン (11月9日～10日) 5万円
 - ② 応用生態工学会東京 (仮) 河川生態系の多様性と管理 (7月13日) 5万円

(2) 審議事項

- 3) 第3次中期計画の2012年度予算の内、普及・連携委員会に120万円、テキスト刊行関連に残金の相当分の予算を配分することについて、審議された。

【理事会意見】

- ・中期計画実行予算については、特別会計で行う事を検討すること。
 - ・第3次中期計画について、現時点の中期計画の予算配分をもう一度精査して、「事務局の長期運営体制の見直しの検討」、「テキストの刊行」、「普及・連携委員会による会員増強策」を3本柱とする修正案を検討すること。
- 4) 会誌査読料の廃止について、審議され会誌査読料を廃止することが承認された。

【理事会承認】

- ・15巻-2号から、査読料は無しとする。
 - ・査読料の代わりに当該の冊子1冊を贈呈する(会員、非会員とも)。
- 5) 口座振替による会費請求の可否について、審議され、理事会で承認された。

【理事会意見】

- ・出来るだけ口座振替に協力頂けるような広報の方法を検討すること。
 - ・個人通帳からの引落としが、応用生態工学会年会費であることが明確に分かるようにすること。
- 6) 各委員会の任期を、4月1日からとする事について審議され、規約を改正することが承認された。

<応用生態工学会規約(改訂案)>

(委員会)

第17条 本会はその運営等のため、理事会の議決を経て、各種の委員会を設けることができる。

2 委員会の委員は会長がこれを委嘱する。

「現行」: 3 委員の任期は2年を原則とし、再任は妨げないものとする。

「改訂案」: 3 委員の任期は2年を原則とし、4月1日に始まり翌々年の3月31日に終わる。
ただし、再任は妨げないものとする。

4.2 第53回幹事会報告

日時: 2012年8月3日(金) 10:00~12:00

場所: 応用生態工学会事務所(麹町)

出席: 藤田幹事長, 萱場副幹事長, 仮谷幹事, 河口幹事, 坂之井幹事, 島崎幹事, 高村(祐平)幹事,
武藤幹事 事務局: 高橋事務局長

委任状: 田代幹事, 三宅幹事

(1) 委員会報告

1) テキスト刊行準備委員会の進捗状況報告

萱場副幹事長より、テキスト刊行準備委員会の進捗状況についての報告があった。

【幹事会意見】

これまでのプロセスを踏まえ、大会での自由集会で最終的なご意見を頂いた上で、早い段階で第1冊目を作成する。今後もいろいろな意見が出てくると思うが、第一歩を踏み出さない限り次善の策は出てこないで、まずは現在の情報・ご意見を元に作ってみるのが先決である。

2) 2012年度 第1回 普及・連携委員会報告

事務局より、7月14日(日)に開催された第1回普及・連携委員会について報告した。

【幹事会意見】

中期計画実行費で相当部分の予算をさいているので、それに見合う効果があったかどうかを沖縄フィールドシンポや東京・石川の助成金、長野立ち上げの補助金等に関して、その具体的な効果を幹事会・理事会に報告すること。

3) ELR2012 東京 第2回実行委員会報告

事務局より、7月20日(金)に開催されたELR2012 東京 第2回実行委員会について報告した。

4) 第1回 事務局改善WG 報告

幹事長より、7月26日(木)に開催された第1回事務局改善WGについての報告があった。

【幹事会意見】

最近、一般法人の申請が多く公益法人のなり手が少ないため、以前に比べて公益法人の申請がやりやすくなっているとの未確認情報があり、情報収集するようとの意見があった。

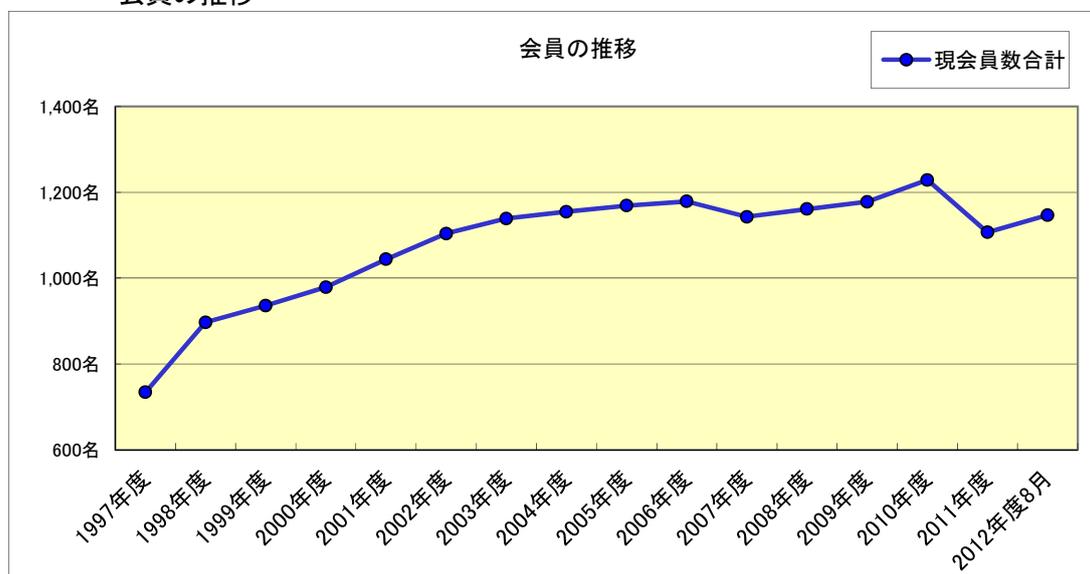
(2) 会員数報告

事務局より、2012年8月1日時点での会員数の動向について報告した。

—— 現会員数 ——

年度	総会員数	正会員	学生会員	名誉・特別海外会員	賛助会員
2010年3月31日	1,229名	1,112名	94名	23名	33法人：49口
2011年3月30日	1,271名	1,147名	102名	22名	29法人：43口
2012年8月1日現在	1,147名	1,026名	100名	21名	26法人：39口
※2011年3月31日を持って、4年以上の会費滞納者、宛先不明者（107名）を退会扱いとした。					
国際英文誌購読会員数 (2012年8月1日現在)	124名	115名	8名	名誉会員：1名	3法人(7冊)

—— 会員の推移 ——



(3) 審議事項

1) 第3次中期計画の見直し(継続審議)

事務局より、これまで継続審議されてきた内容をまとめた「第3次中期計画中間報告(案)」が提示され、内容が審議された。(詳細については、別紙-1を参照ください。)

【幹事会意見】

中期計画予算について、アクションプラン①、②、③の4年計画を明確にすること。

2) 実行予算の繰り越しにかかわる特別会計の新設

事務局より特別会計の新設と、第3次中期計画予算の関わりについて説明し、その内容が審議された。

【幹事会意見】

幹事会として、特別会計の新設を了承する。

3) 地域研究会の運営に関する取り決め

事務局より地域研究会への助成金・補助金の実態と問題点を説明し、その内容について審議された。

【幹事会意見】

・今回の議論を契機に、地域研究会のあり方を幹事会で継続審議するが、普及・連携委員会としても検討してほしい。中期計画実行費を使うのであれば、それによってどういった効果が期待できるかを議論し、会員増という定量的な評価だけでなくこのようなメリットがあるので年間30万円ぐらいは地域活動に助成してほしいと言った説得力のある提案があれば、予算化も行いやすい。

4) 2013年度予算(案)

事務局より2013年度予算案について説明し、その内容が審議された。

【幹事会意見】

ニュースレターの電子化もほぼ1年を過ぎ、会員には主旨が徹底されていると思うので、メールアドレスのない会員に対するニュースレターの印刷・郵送については、今後取りやめる方向で検討すること。

4.3 第62回理事会報告

日時：2012年8月9日(木) 10:00~12:00

場所：麴町NKビル2階 WEC会議室

出席：近藤会長、池淵副会長、谷田副会長、浅枝理事、久保田理事、熊野理事、辻本理事、
曾根監事、藤田幹事長、高橋事務局長

委任状：関根理事

(1) 第53回幹事会報告

前出の第53回幹事会報告を参照のこと。

(2) 委員会報告

1) テキスト刊行準備委員会の進捗状況報告

藤田幹事長から、テキスト刊行準備委員会の進捗状況と、6月8日に開催したワークショップについての報告があり、理事会からは以下の意見があった。

【理事会意見】

- ・内容について大いに意見を聞いてもらうのは結構だが、どこかで区切りをつける必要がある。編者も決まったので取捨選択は編者に任せることにして、とりあえず作りながら考えるということからスタートしたらどうか。
- ・長期的視点に立ったお金の管理が必要である。お金の管理には必ず責任者を立てて責任を明確にすること。また、お金の管理は、学会の経理とは切り離し、別に通帳を作って独立採算制として事業の各段階で収支を取ることに。

2) 2012年度 第1回 普及・連携委員会報告

事務局より7月14日に開催された2012年度第1回普及連携委員会について報告し、以下の理事会意見があった。

【理事会意見】

- ・現在、様々な地域で研究会が活動しているがどういったブロックで切り分けたらよいか明確になっていない。今後、新たに立ち上がる地域も含めて何らかの線引きが必要である。
- ・新しい地域研究会の立ち上げは、何らかの目的があって予算をつぎ込むのだから、限られた予算・限られた時間の中でどのように収束させ、どのような成果を目指しているのを明確にすること。
- ・地域活動は、熱心な所が意欲を持ってやって頂くことを、できるだけ妨げないと言うことが一番大事である。サポートが必要だが、地域によっていろいろな状況があるので、研究会のあり方といったもので縛ってしまうやり方は取らない方がよい。
- ・今後、普及・連携委員会での議論も考慮しながら、幹事会でそのあり方と運営について検討すること。

3) ELR2012 東京 第2回実行委員会報告

幹事長より、第2回 ELR 東京実行委員会の内容が報告された。

【理事会意見】

- ・シンポジウムの人選について、承認する。

4) 第1回 事務局改善WG 報告

幹事長より、7月26日に開催された第1回事務局改善WGの内容が報告された。

(3) 会員数報告(2012年8月1日現在) (※第53回幹事会報告 (2) 会員数報告参照)

幹事長より、8月1日現在の会員数について報告された。

(4) 審議事項

- 1) 第3次中期計画の見直し(継続審議)
- 2) 実行予算の繰り越しにかかわる特別会計の新設

幹事長より、第3次中期計画の見直し(継続審議)について説明が行われ、第3次中期計画中間報告書(案)が報告された。これに関連して、特別会計の新設についても説明された。

【理事会意見】

- ・第3次中期計画の実行という目的を持って特別会計を運用するのであれば特に問題はない。理事会として、第3次中期計画中間報告書(案)並びに特別会計の新設を了承する。

3) 2013年度予算(案)

2013年度の予算組の前提として、ニュースレターの印刷物の郵送を廃止することについて、幹事長から説明があった。この件について理事会意見があった。

【理事会意見】

- ・ 郵送廃止の予告をしっかりとした上で、やめる方向で検討する。これまで行ってきたサービスをどういった理由で止めるのかを十分理解してもらった上で廃止すること。
- ・ ニュースレターを紙媒体でほしい人には、その経費を別途負担してもらうことについて丁寧な説明をした上で、新たに申込みをして頂き、対応すること。
- ・ 2013年度予算(案)については、ニュースレター郵送廃止を含めて、承認する。

4) その他

●次期大会開催地について

東京を第一案として、大阪での開催も検討してもらう。

●LEEの現状について

LEEの現状について説明があり、問題点として応用生態工学会からの投稿が1割程度で、緑化工学会、景観生態学会が主になっていることが説明された。次回の理事会で議事次第の中に、LEEの今後についての議論を入れることとなった。

5 事務局より

5.1 今後の予定

8月下旬	三学合同実行委員会 開催予定
9月8日(土)～ 10日(月)	三学合同大会『ELR2012 東京』開催 第16回総会 開催 第54回幹事会・第63回理事会合同会議 開催
11月9日～10日	第11回北陸ワークショップ in 石川 開催
12月上旬	ニュースレター58号 発行(大会特集)
12月下旬	会誌「応用生態工学Vol. 15-2」発行予定
1月中旬	第55回幹事会 開催予定
2月上旬	第64回理事会 開催予定
2月下旬	ニュースレター59号 発行
3月31日	2012年度終了

5.2 メールアドレス登録のお願い

本ニュースレターは、学会ホームページにアップロードしたPDFファイルのURLを、登録頂いたメールアドレスに送信していくこととなっております。

新たにメールアドレスを登録する場合は、下記の学会ホームページからお知らせ下さい。

● 会員登録情報変更連絡フォーム

<http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

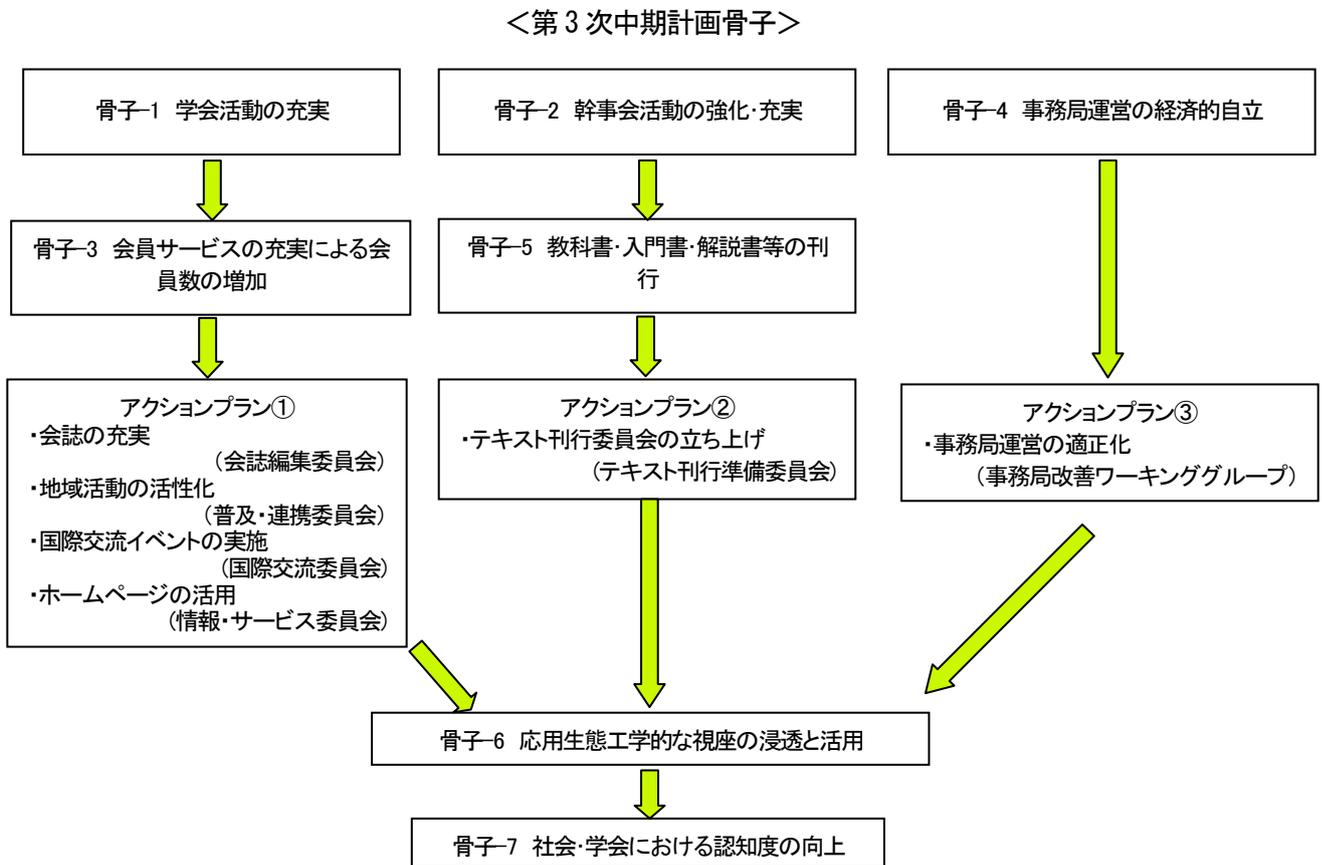
別紙 -1

【第3次中期計画中間報告】

1. 第3次中期計画の骨子について

当初、並列に表記された7つの中期計画骨子は、階層構造となることが確認された。これに伴い、2012年度以降、3つのアクションプランを柱として第3次中期計画を推進することが、第61回理事会で決まった。

計画実行費として計上された予算(案)は、アクションプラン①の中の地域活動の活性化、テキスト刊行委員会の立ち上げ、事務局改善WGの3つに重点配分されることが、幹事会・理事会の継続審議を通して承認された。



2. アクションプランの実施

それぞれの実施主体による具体的なアクションプランは、以下の通りである。

2.1 アクションプラン①の実施

1) 会誌編集委員会

- ・骨子-1(学会活動の充実)として、新たなシステム (J-STAGE3) を活用し、査読の迅速化を図る。
- ・骨子-3(会員サービスの充実)として、新たなカテゴリー「レポート」を設け、会誌の充実を図る。
- ・実行予算については、特に計上しない。

2) 普及・連携委員会 (各地域研究会)

- ・骨子-1として、地域におけるフィールド・シンポジウムや各種イベントを開催し、応用生態工学の広報・普及や市民との連携を促進する。
- ・骨子-3として、新たな地域研究会の立ち上げや災害復興に関する活動などを活性化する。
- ・普及・連携委員会(各地域研究会)の活動は、直接的に会員の増加に繋がることから、重点的な予算配分を行うこととし、120万円を実行予算に充てる。

なお、普及・連携委員会で予算化されたアクションプラン実行費については、どこに重点的に配分するかは普及・連携委員会(委員長)の裁量に任せる。

①沖縄フィールドシンポジウムへの投資：40万円

②WS助成金として：30万円(1件の上限5万円の枠は廃止)

③応用生態工学会長野・岡山等の新規立ち上げ補助として：20万円

- ・新規地域組織立ち上げの補助：長野県などでの新規立ち上げに際してのWSについては、新入会員募集の大きな機会に位置づけ、別枠の助成を行う。

④東日本大震災復興に関する応用生態工学会としての活動費：30万円

合計：120万円

3) 国際交流委員会

- ・骨子-1, 骨子-3として、国内他分野との交流を含む国際交流イベントを2年に1回、開催する。
- ・実行予算は、2011年度開催で約50万円を使用している。2013年度の予算については未定となっている。

4) 情報サービス委員会

- ・骨子-1, 骨子-3として、ホームページの更なる活用による会員サービスの向上を図る。
- ・実行予算については特に計上しないが、必要に応じてソフト等を購入する。

2.2 アクションプラン②の実施

- ・骨子-2(幹事会活動の強化・充実)として、2012年度は、テキスト刊行委員会(仮称)の立ち上げを中心に活動する。来期以降は、各委員会で検討して頂いた実施計画の中から課題を抽出し、各委員会と共に中期計画の達成を目指す。
- ・骨子-5(教科書・入門書・解説書等の刊行)として、幹事会を中心に、テキスト刊行準備委員会がすでに活動を開始している。今後は、テキスト刊行委員会の立上げに向けた具体的な活動に移り、2013年度までに完了する。
- ・2012年度見込みとして、実行予算50万円を計上する。(委員会交通費、印刷代等)

2.3 アクションプラン③の実施

- ・骨子-4(事務局運営の経済的自立)として、事務局改善ワーキンググループがすでに活動している。会員サービスを維持しつつ事務局の経済的自立を図る事を目的に、今後は、事務局改善ワーキンググループを中心に、事務局運営の健全化を目指した実務的な検討に入る。
- ・実行予算として、10万円を計上する。(旅費、会議費)

2.4 アクションプランの目的・評価

- ・ 骨子-6 (応用生態工学的な視座の浸透) として、技術援助委員会を中心に、他の学術団体との共催・後援等を通じて学術的な技術援助の実績を広げ、応用生態工学的な視座の浸透を図る。
- ・ 骨子-7 (応用生態工学の認知度の向上) については、上記骨子 1-から骨子-6 までの活動を通じて、その集大成として応用生態工学の認知度が向上し、結果として会員増が図られる。

3. アクションプランの予算(案)

- ・ 第3次中期計画実行費は、2010年度～2013年度を対象としているために、一般会計から切り離し、特別会計とする。
- ・ 一般会計に中期計画実行費枠を設けて、ここから特別会計に資金を移行させ、一般会計内での計画実行費は単年度決算で処理する。
- ・ 特別会計は単年度決算とはせず、当該年度の余剰金は次年度予算に繰り込む事とする。
- ・ 特別会計の収入は、一般会計からの繰入金を当てる。
- ・ 特別会計の支出は、①普及・連携委員会活動費、②テキスト刊行委員会の立ち上げ、③事務局健全化WG活動費に重点的に配分するが、必要に応じて国際シンポジウムの開催費、ホームページの改良等に配分する。
- ・ 特別会計は、2014年3月31日の第3次中期計画終了時に収支決算を行い、一般会計に繰り入れた後、終了とする。

アクションプラン予算(案)

特別会計	2013年度 予 算	増減要因	2012年度 見込み	2011年度 決 算	2010年度 決 算※
特別会計 収入	1,549,202		2,149,202	1,500,000	0
前年度実行予算残	649,202	2012年度予算残	849,202	0	0
一般会計からの繰り入れ	900,000	2013年度中期計画実行予算	1,300,000	1,500,000	0
その他の収入	0		0	0	0
特別会計 支出	1,400,000		1,500,000	650,798	0
普及連携委員会活動費	300,000	助成金枠30万円	900,000	0	0
国際シンポジウム実行費	500,000	2年に1度の開催	0	500,418	0
テキスト刊行準備委員会	500,000	テキスト刊行委員会立ち上げ	500,000	150,380	0
事務局改善WG	100,000	事務局改善WG会議費	100,000	0	0
収支差額(次年度繰越分)	149,202		649,202	849,202	0

※2010年度は、中期計画実行費は予算化されていない。

別紙 -2

2012年8月27日 〆切
 Fax 送付先: 03-3818-8282
 Email 送付先 elr2012@jsrt.jp

ELR2012 東京 参加申込書

次のいずれかに○を記入するとともに、以下の空欄に必要事項を記入して下さい。ご記入いただいた個人情報につきましては、大会運営に関わる事務処理にのみ使用し、第三者への開示、提供はいたしません。

- () 日本緑化工学会経由で申し込みます。(賛助会員構成員は会員としてお申し込み下さい。)
- () 日本景観生態学会経由で申し込みます。
- () 応用生態工学会経由で申し込みます。
- () 上記の学会を経由せずに申し込みます。(非会員用)

氏 名				
連 絡 先	所 属			
	電 話	— —	() 自 宅	() 勤 務 先
	ファックス	— —	() 自 宅	() 勤 務 先
	E-mail			
参加費種別 (○を記入して下さい)	() 会 員 ¥5,000(当日:¥6,000)	() 一 般 ¥10,000	() 学 生 ¥2,000	
エクスカージョン (○を記入して下さい)	() 1泊2日コース ¥15,000	() 1日コース ¥6,000	() 半日コース ¥3,000	
懇親会 (○を記入して下さい)	() 参 加 ¥5,000	() 不 参 加 —		

【備考欄 — 請求書・領収書の発行などご要望があれば記入して下さい —】

●参加料振込先

<ゆうちょ銀行からの振込の場合>
 ■口座名: ELR2012 東京実行委員会
 ■口座番号: 00110-4-750454

<銀行からの振り込みの場合>
 ■銀行名: ゆうちょ銀行 当座
 ■金融機関コード: 9900
 ■店番: 019
 ■店名: 〇一九店 (ゼロイチキョウ店)
 ■口座番号: 0750454
 (イーエルアールジッコウイインカイ)